

教育課程 授業科目および授業単位数

	授業科目	単位数	時間	1年生		2年生		3年生		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	科学的思考	1	30	1	30					
	情報リテラシー	1	15	1	15					
	看護情報学	1	30					1	30	
	看護哲学	1	30							
	看護における生命倫理	1	30						1	
	看護における生命倫理	1	30						1	
	家族ケア概論	1	15	1	15					
	看護心理学	1	30	1	30					
	人間関係論	1	30			1	30			
	日本の文化と暮らし	1	30	1	30					
	コミュニケーションの基礎	1	30	1	30					
	言語表現法	1	30	1	30					
	看護教育学	1	15						1	
	外国語の基礎(英語)	1	30	1	30				1	
看護に役立つ外国語	1	15			1	15				
保健体育	1	30						1		
1	30							1		
専門基礎分野	解剖学Ⅰ	1	30	1	30					
	解剖学Ⅱ	1	30	1	30					
	生理学Ⅰ	1	30	1	30					
	生理学Ⅱ	1	30	1	30					
	生化学	1	30	1	30					
	1	30	1	30						
	病態学総論	1	30			1	30			
	基礎薬理学	1	30			1	30			
	微生物学	1	30			1	30			
	臨床検査	1	15			1	15			
	臨床栄養学	1	30			1	30			
	治療論	1	30			1	30			
	腎泌尿器内分疾患と看護	1	30			1	30			
	運動器脳神経疾患と看護	1	30			1	30			
	呼吸器循環器疾患と看護	1	30			1	30			
	消化器疾患と看護	1	30			1	30			
	性・生殖器疾患と看護	1	15			1	15			
	血液・免疫・感覚器、歯、口腔疾患と看護	1	15			1	15			
	小児高齢者疾患と看護	1	30			1	30			
	チーム医療論	1	15			1	15			
	看護をめぐる法と制度	1	15			1	15			
暮らしの中の健康を支援する看護	1	30			1	30				
看護で活用する社会保障制度	1	30			1	30				
社会資源コーディネート論	1	15			1	15				
公衆衛生・看護疫学	1	30			1	30				
1	30									
基礎看護学	看護学概論	1	30	1	30					
	看護理論	1	30	1	30					
	看護倫理	1	15	1	15					
	ケアリング論	1	15			1	15			
	看護基本技術	1	30	1	30					
	診療の補助を支える看護技術1	1	30			1	30			
	診療の補助を支える看護技術2	1	20			1	20			
	日常生活を整える看護技術(環境・活動と休息)	1	30			1	30			
	日常生活を整える看護技術(食事・排泄)	1	20			1	20			
	日常生活を整える看護技術(清潔・衣生活)	1	30			1	30			
	基礎看護技術総合演習	1	30			1	30			
	看護過程の基礎	1	30			1	30			
	1	15			1	15				
	地域・在宅看護概論	1	30			1	30			
	地域で療養生活を送る人の暮らしの場で行われる治療と看護	1	20			1	20			
	地域で療養生活を送る人の暮らしを支える看護技術	1	15			1	15			
	地域で療養生活を送る対象への看護過程	1	30			1	30			
	1	15			1	15				
	成人	クリティカルケア看護技術	1	30			1	30		
		セルフマネジメント看護技術	1	30			1	30		
		セルフケア支援看護技術	1	30			1	30		
老年	高齢者の生活を支える看護技術	1	30			1	30			
	高齢者への看護過程	1	15			1	15			
精神	精神に障がいをもつ対象への看護技術	1	30			1	30			
	精神に障がいをもつ対象への看護過程	1	15			1	15			
母性	性と生殖の看護技術	1	30			1	30			
	周産期の看護過程	1	15			1	15			
小児	小児看護技術	1	30			1	30			
	健康に障がいをもつ子どもと家族の看護過程	1	15			1	15			
領域横断	薬物療法と看護	1	30			1	30			
	ケアリングコミュニケーション	1	30			1	30			
	中絶理論の活用	1	30			1	30			
	周手術期と看護	1	30			1	30			
	エンドオブライフケア	1	30			1	30			
	症状マネジメント論	1	30			1	30			
	ヘルスケアマネジメント	1	30			1	30			
	医療安全	1	15			1	15			
	継続看護	1	15			1	15			
	災害看護	1	15			1	15			
	対象特性別看護にかかわる法律	1	15			1	15			
	対象特性別家族ケア論	1	15			1	15			
	ライフサイクルと看護	1	30	1	30					
	看護実践演習	1	30					1	30	
看護の統合と	看護研究	1	30					1	30	
	国際看護	1	15					1	15	
	チーム医療の実際	1	15					1	15	
	看護マネジメント論	1	15					1	15	
	看護リフレクション	1	30					1	30	
実習	暮らしを知る実習	1	40	1	40					
	看護を知る実習	1	40			1	40			
	基礎看護技術実習	2	80			2	80			
	セルフケア支援実習(回復期)	2	80			2	80			
	周手術期実習(急性期)	2	80			2	80			
	セルフマネジメント実習(慢性期・終末期)	2	80			2	80			
	高齢者支援実習	2	80			2	80			
	母性看護学実習	2	80			2	80			
	小児看護学実習	2	80			2	80			
	精神看護学実習	2	80			2	80			
	在宅療養者支援実習	2	80			2	80			
地域高齢者看護実習	1	40			1	40				
ケアリング実習	2	80			2	80				

卒業に必要な総単位数および総時間数 107 107 3020 3020 19 535 20 525 20 520 21 545 23 805 4 90

## Ⅹ. 特別教育活動

特別教育活動を通し、学生が物事に主体的に取り組み、実際に企画・運営に参加することによりその難しさ楽しさを学ぶ。また、この活動を通し、学生間の親睦を図り、連帯感を養い、さらに見聞を広め、社会性を身につけることを目的とする。

項目	年次			目標
	1	2	3	
	時間	時間	時間	
入学式	2			入学を祝い、本校の学生として今後の学習の目標を明確にし、希望をもって、新たな決意で学習する動機づけの機会とする。
ガイダンス	24			新しい環境や友人と親しみ、3年間の学習内容の意義を知り、生活のリズムを調整し学習計画を立てる機会とする。
合同研修	8	8	8	学生間の親睦を図り、協調性を育てるとともに、日々養った自主性を発揮する。また、自然に親しみ英気を養う。
定期健康診断	2	2	2	健康の保持、疾病の早期発見に資する。
戴帽式		18		学内や臨床実習を通して学習した[看護の本質]を深く理解し、戴帽し、ナイチンゲールの灯の下、看護への道をめざす決意を新たにす。
看護研究発表会	2	2	8	日々の学習の中で、常に研究釣視点を持ち続け、発表会に参加することにより他者の研究発表を共有し、自己啓発する機会とする。
埼玉県学生研究発表会		2		日々の学習の中で、常に研究釣視点を持ち続け、発表会に参加することにより他者の研究発表を共有し、自己啓発する機会とする。
防災訓練	2	2	2	災害時の対応の原則を学び、消火活動、非難の方法を身につける。また、災害時における職業上の役割・行動について考える機会とする。
文化祭	8	8	8	看護芸術文化など広い領域の先達に触れることにより視野を深め、人間性を豊かにし感性を高める機会とする。
特別講演	2	2	2	
H・R	22	22	14	学級活動を通して各自の主体性・創造性・協調性を育てる。
国家試験対策	8	8	80	自己の知識の到達度に関する一側面を認識し強化する。
模擬試験 実力試験	10	10	16	
卒業式			2	看護基礎教育の課程の終了を祝い、看護実践者として社会に巣立つ大きな節目の日として自覚する。また、卒業後の自己の社会的役割について考える機会とする。
(海外)研修旅行		32		(海外)研修旅行に、学生自身を積極的に参加させることにより、いかに安全でかつ楽しく実行できるかを学ぶ機会とする。また、日本国とは異なる国の看護を知ることにより見聞を広め、卒業後のこれからの看護に役立てる。
小計	90	116	142	
総計		348		

## 基礎分野

授業科目名	情報リテラシー	
科目目的・目標	情報リテラシー（情報を自己の目的に適合するように使いこなす能力＝情報活用力）を修得する。情報とそれを取り巻く情報環境にまで視野を広げ、それらの正しい知識と基礎的な利用法を修得するとともに、情報化社会におけるコンピュータやインターネット、情報の役割と意義についての問題意識を養う。	
授業概要		
担当講師	菅沼寛之 高橋幸也	
開講時期：単位	1年次前期	1単位30時間
授業計画	1回	デジタル教科書の活用
	2回	〃
	3回	インターネットのメリットデメリット
	4回	ソーシャルメディア活用法
	5回	ワード作成
	6回	ワード作成
	7回	レポート作成
	8回	Excel
	9回	Excel
	10回	Excel
	11回	Excel
	12回	Excel
	13回	パワーポイント作成
	14回	パワーポイント作成
	15回	終講試験・まとめ
使用テキスト		
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 基礎分野

授業科目名	看護情報学	
科目目的・目標	医療および福祉の現場で進んでいる ICT (information communication technology) を用いた取り組みについて理解を深めるとともに、ICT の利用者としての側面と倫理的な側面から医療に携わる人材が知っておくべき課題について学ぶ。	
授業概要		
担当講師	萩原潤	
開講時期：単位	1 年次前期	1 単位15時間
授業計画	1 回	看護情報学をなぜ学ぶのか
	2 回	コンピュータリテラシー
	3 回	情報リテラシー
	4 回	情報倫理と法
	5 回	医療情報システム
	6 回	看護用語の標準化
	7 回	看護における情報システムの活用例
	8 回	終講試験
	9 回	
	1 0 回	
	1 1 回	
	1 2 回	
	1 3 回	
	1 4 回	
	1 5 回	
使用テキスト	エッセンシャル看護情報学	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 基礎分野

授業科目名	看護哲学	
科目目的・目標	人間は多様な「考え方」を持っている。その背景には、「主観」「客観」という認識の仕方や、「二元論」「全体論」「関係論」などが潜んでいる。古代ギリシア以来、哲学が「愛知」という意味であることを深く考え、「世界観」「人間観」などの「観」方が「知」によって形成されていることを学ぶ。 1. 文化や価値観が多様化する中で一人一人の人間を個として総合的に理解し尊重しつつ行われる「看護」とはどのようなものであるべきかを、様々な角度から自らで考え、論じることができる。	
授業概要		
担当講師	中根弘之	
開講時期：単位	3年次前期	1単位30時間
授業計画	1回	「哲学」とはどのような学問か
	2回	現象学という哲学——フッサールの現象学
	3回	フッサールの現象学
	4回	ハイデガーの現象学
	5回	ハイデガーの現象学
	6回	メルロ＝ポンティの現象学
	7回	ベナー／ルーベルの現象学的人間観
	8回	ベナー／ルーベルの現象学的人間観
	9回	ベナー／ルーベルの現象学的人間観
	10回	現象学という哲学の視点から、医療ケアを考える
	11回	現象学という哲学の視点から、医療ケアを考える
	12回	現象学という哲学の視点から、医療ケアを考える
	13回	現象学という哲学の視点から、医療ケアを考える
	14回	現象学という哲学の視点から、医療ケアを考える
	15回	終講試験・まとめ
使用テキスト	医療ケアを問いなおす ——患者をトータルにみることの現象学【シリーズ】 ケアを考える（ちくま新書）	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 基礎分野

授業科目名	看護における生命倫理	
科目目的・目標	現代医療の現場で重要な課題となっている生命倫理の諸問題を考察し、看護師としての倫理的な自覚を深める。	
授業概要	看護職として倫理的課題に直面したとき、専門職としてそれら逃げることなく関わっていく責任があるということを、授業を通して再認識できるように事例を通して学ぶ。	
担当講師		
開講時期：単位	3年次後期	1単位30時間
授業計画	1回	生命倫理とは何か
	2回	生の始まりと関わる倫理問題1（生殖技術）
	3回	生の始まりと関わる倫理問題2（人工妊娠中絶）
	4回	生の始まりと関わる倫理問題3（遺伝子技術と優生学）
	5回	生の終わりに関わる倫理問題1（移植医療と死の概念）
	6回	生の終わりに関わる倫理問題2（安楽死）
	7回	生の終わりに関わる倫理問題3（ターミナルケア）
	8回	インフォームド・コンセント
	9回	今後の医療と生命倫理
	10回	事例検討－倫理的スキルをみがく－
	11回	〃
	12回	〃
	13回	〃
	14回	〃
	15回	試験
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ18巻：看護学概論 デジタルナーシンググラフィカ14巻：健康と社会・生活	
参考書		
評価方法		
その他		

## 基礎分野

授業科目名	家族ケア概論	
科目目的・目標	<p>様々な健康レベルの家族のヘルスニーズや、家族の健康問題によって発生する家族問題を理解し、家族の保健機能や介護機能を高めるための看護を学ぶ。</p> <p>1. 様々な健康レベルの家族の健康問題によって発生する家族問題と援助の必要性を理解する。</p> <p>2. 家族を単位としたアセスメントの方法を理解する。</p> <p>3. 家族に対する看護を理解する。</p>	
授業概要		
担当講師	千葉みのり	
開講時期：単位	1 年次前期	1単位15時間
授業計画	1 回	家族看護とは
	2 回	家族看護の対象理解（家族とは・家族構造）
	3 回	家族看護の対象理解（家族機能）
	4 回	家族看護の対象理解（現代家族とその課題）
	5 回	家族看護を支える理論と介入法（理論）
	6 回	家族看護を支える理論と介入法（介入）
	7 回	家族看護展開の方法（家族看護の過程）
	8 回	試験
	9 回	
	1 0 回	
	1 1 回	
	1 2 回	
	1 3 回	
	1 4 回	
	1 5 回	
使用テキスト	家族看護学（メディカ出版）	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 基礎分野

授業科目名	看護心理学	
科目目的・目標	自己と他者を理解するための基礎知識として、こころの発達や働きについて知る。 それをもとに、人と関係を築く際、こころの領域に目を向ける姿勢を養う。 1. 看護の対象である人間の一生に関心を持ち、人間を生涯発達し続ける存在として捉えることができる。 2. 科学的に人間の心理を理解するための基礎知識を習得することができる。	
授業概要		
担当講師	千葉みのり	
開講時期：単位	1 年次前期	1単位30時間
授業計画	1 回	看護における心理学とは
	2 回	脳の働きと精神機能①(知覚・感覚機能、記憶)
	3 回	脳の働きと精神機能②(感情と動機、学習)
	4 回	自我の機能と精神力動
	5 回	防衛機制
	6 回	生活環境からの心理的影響
	7 回	性格と知能
	8 回	治療環境と転移感情
	9 回	知的障害、発達障害とは
	1 0 回	精神障がいとは
	1 1 回	治療にいかす精神分析
	1 2 回	心理社会的治療法(精神療法、SST, 認知行動療法) ①
	1 3 回	心理社会的治療法(精神療法、SST, 認知行動療法) ②
	1 4 回	アサーショントレーニング
	1 5 回	終講試験・まとめ
使用テキスト		
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		



## 基礎分野

授業科目名	人間関係論		
科目目的・目標	人間関係成立のために知識・技術の基本理論から方法論を理解する。 1. コミュニケーション、カウンセリングの演習を通して関係成立の技法を看護実践に用いることができる。		
授業概要			
担当講師	河西一代		
開講時期：単位	1 年次後期	1単位30時間	
授業計画	1 回	人間関係の基本的意義	講義・GW
	2 回	社会的相互作用と社会的役割	講義・GW
	3 回	自己と他者の理解・受容	講義・GW
	4 回	コミュニケーション技法と基本	講義・GW
	5 回	援助的コミュニケーション	講義・GW
	6 回	カウンセリングの理論と実践	講義・GW
	7 回	来談者中心療法	講義・GW
	8 回	交流分析①	講義・GW
	9 回	交流分析②	講義・GW
	1 0 回	ジェンダー、性同一性障害を考える。	講義・GW
	1 1 回	人間関係としてのアディクション、DV	講義・GW
	1 2 回	アサーティブなコミュニケーションと事例	講義・GW
	1 3 回	患者と家族へカウンセリングを活かした関わり	講義・GW
	1 4 回	ソーシャルサポートとノーマライゼーションをはぐくむ人間関係	講義・GW
	1 5 回	終講試験・まとめ	
使用テキスト	人間関係論（医学書院）		
参考書			
評価方法	筆記試験・授業態度・レポートの総合評価（100点）		
その他			

## 基礎分野

授業科目名	日本の文化と暮らし	
科目目的・目標	暮らしとは、長い期間行われてきた生活として捉え、生き方や生活信条に基づくものである。そのため、日々の生活を生活構造の概念、生活水準、生活関係、生活時間、生活空間、生活行為などを通して対象の暮らしを理解する。さらに暮らしと密接に関連する日本の文化を理解することで、異文化理解に必要な基礎的能力を養う。 1. 日本文化の歴史的変遷や在りようについて関心を持ち、知識を深める。 2. 日本の文化や伝統について深く考え、知り得たことを今後の生活の中で判断し、生かすことができる。	
授業概要		
担当講師	海老原光子	
開講時期：単位	1 年次前期	1単位30時間
授業計画	1 回	暮らしとは（暮らしと生活）
	2 回	日本の文化
	3 回	日本文化の歴史的変遷
	4 回	日本の食文化
	5 回	日本の暦と年中行事
	6 回	日本人の自然観
	7 回	付き合い・慣習
	8 回	生活文化の探求
	9 回	生活構造
	1 0 回	文化の違い（地域性・日本文化と他国の文化の比較）
	1 1 回	文化の違い（地域性・日本文化と他国の文化の比較）
	1 2 回	事例演習
	1 3 回	事例演習
	1 4 回	事例演習
	1 5 回	終講試験・まとめ
使用テキスト	文化人類学（医学書院）	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 基礎分野

授業科目名	コミュニケーションの基礎		
科目目的	人間関係の基礎となる言語的・非言語的コミュニケーションの特徴や医療コミュニケーションの基礎知識について学ぶ。また、さまざまな手段・方法を用いて他者とのコミュニケーションを体験的に学習する。自己主張と他者理解を深め、効果的なコミュニケーションについての理解を深める。		
科目目標	コミュニケーションにおける言語的、非言語的な表現の大切さを理解し、的確に情報を得る方法と、実践的な表現能力を身につけることを目標にする。		
担当講師	河西一代 大橋恵美子		
開講時期：単位	1年次前期	1単位30時間	
授業計画	1回	人間関係を発展させるための技術①	講義・GW
	2回	人間関係を発展させるための技術②	講義・GW
	3回	人間関係を発展させるための技術③	講義・GW
	4回	効果的なコミュニケーションを考える①	講義・GW
	5回	効果的なコミュニケーションを考える②	講義・GW
	6回	対象を尊重したコミュニケーション①	講義・GW
	7回	対象を尊重したコミュニケーション②	講義・GW
	8回	カウンセリングとは	講義・GW
	9回	臨床でのカウンセリング	講義・GW
	10回	カウンセリング技法を取り入れるかかわり	講義・GW
	11回	治療的コミュニケーション技術	講義
	12回	プロセスレコード 場面の再構成	講義
	13回	(演習)	演習
	14回	(演習)	演習
	15回	終講試験・まとめ	
使用テキスト	メディカ出版 ナーシンググラフィカ 基礎看護学②基礎看護技術 I p26～p73		
参考書			
評価方法	終講試験		
その他			

## 基礎分野

授業科目名	国語表現法	
科目目的・目標	<p>国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を養う。</p> <p>1. 自分の考えをわかりやすく論理的に表現することができる。  2. 相手の立場や状況を考えて、相手に配慮した日本語表現ができる。  3. 日本語を話すことや書くことを通して、日本語を見直し、意識することができる</p>	
授業概要		
担当講師	中根弘之	
開講時期：単位	1 年次前期	1単位30時間
授業計画	1 回	国語表現の基礎・方法(1)
	2 回	国語表現の基礎・方法(2)
	3 回	国語表現の基礎・方法(3)
	4 回	国語表現の基礎・方法(4)
	5 回	敬語表現の応用編：様々な状況に即した敬語待遇表現
	6 回	電子メールおよび原稿用紙のルール
	7 回	文章の目的・内容・形式／文章の構成法／表現技法／悪文
	8 回	文章の目的・内容・形式／文章の構成法／表現技法／悪文
	9 回	レポートの書き方
	10 回	レポートのまとめ方
	11 回	レポートのまとめ方(演習)
	12 回	小論文の書き方
	13 回	小論文の書き方(演習)
	14 回	小論文の書き方(演習)
	15 回	終講試験・まとめ
使用テキスト		
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 基礎分野

授業科目名	看護教育学	
科目目的・目標	現在の看護教育、就職して受けるだろう継続教育、将来の看護教育について一緒に考え、看護にとっての教育学の必要性について学ぶ。 1. 看護教育制度、看護教育の現状と課題について理解することができる。	
授業概要		
担当講師	小笠原正太郎	
開講時期：単位	3年次後期	1単位15時間
授業計画	1回	看護と教育学
	2回	近年の看護や教育をめぐる問題
	3回	教育に影響を与える心理
	4回	生涯学習
	5回	教育評価のあり方について理解する
	6回	看護継続教育の現状・臨床現場における看護教育の課題
	7回	看護卒後教育と看護教育の将来
	8回	終講試験
	9回	
	10回	
	11回	
	12回	
	13回	
	14回	
	15回	
使用テキスト		
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 基礎分野

授業科目名	外国語の基礎	
科目目的・目標	医療現場で患者やスタッフと外国語でコミュニケーションをとる積極的な態度を身につける。 1. 実際の看護の場面で、英語による簡単なコミュニケーションができる。 2. 医療や臨床で使う英語を理解し、活用できる能力を身につける。	
授業概要		
担当講師	木村杏子	
開講時期：単位	1 年次前期	1単位30時間
授業計画	1 回	あいさつ・自己紹介の表現
	2 回	医療・看護場面に必要な英語
	3 回	医療・看護場面に必要な英語
	4 回	医療・看護場面に必要な英語
	5 回	医療・看護場面に必要な英語
	6 回	医療・看護場面に必要な英語
	7 回	医療・看護場面に必要な英語
	8 回	医療・看護場面に必要な英語
	9 回	医療・看護場面に必要な英語
	1 0 回	医療・看護場面に必要な英語
	1 1 回	医療・看護場面に必要な英語
	1 2 回	医療・看護場面に必要な英語
	1 3 回	医療・看護場面に必要な英語
	1 4 回	医療・看護場面に必要な英語
	1 5 回	終講試験・まとめ
使用テキスト	「現場ですぐに役立つ！ 看護・医療スタッフの英語」（朝日出版社）	
参考書		
評価方法		
その他		

## 基礎分野

授業科目名	看護に役立つ外国語	
科目目的・目標	医療現場で多国籍の対象とコミュニケーションをとるために必要なコミュニケーションの基礎的能力を身につける。 1. 実際の看護の場面で、多様な言語による簡単なコミュニケーションができる。 2. 医療や臨床で使う外国語を理解し、活用できる能力を身につける。	
授業概要		
担当講師	金宏徽 ジョン・ギャンミ	
開講時期：単位	2年次前期	1単位15時間
授業計画	1回	医療・看護場面に必要な中国語
	2回	医療・看護場面に必要な中国語
	3回	医療・看護場面に必要な中国語
	4回	医療・看護場面に必要な中国語
	5回	医療・看護場面に必要な韓国語
	6回	医療・看護場面に必要な韓国語
	7回	医療・看護場面に必要な韓国語
	8回	終講試験
	9回	
	10回	
	11回	
	12回	
	13回	
	14回	
	15回	
使用テキスト		
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 基礎分野

授業科目名	保健体育	
科目目的・目標	スポーツや運動における健康と安全に対する知識を深めるとともに、実際の運動を通し身体面や精神面に与える影響について理解する。 1. スポーツや運動を通して健康管理について考えることができる。 2. 運動を通して自身の基礎体力の維持ができる。	
授業概要		
担当講師		
開講時期：単位	3年次前期	1単位30時間
授業計画	1回	運動の必要性
	2回	現代生活における運動と健康づくり（健康を守る生活）
	3回	加齢と身体的機能
	4回	体育実技
	5回	〃
	6回	〃
	7回	〃
	8回	〃
	9回	〃
	10回	〃
	11回	〃
	12回	〃
	13回	〃
	14回	〃
	15回	終講試験・まとめ
使用テキスト		
参考書		
評価方法		
その他		



## 専門基礎分野

授業科目名	解剖学 I	
科目目的・目標	人体の成り立ち・生命現象について形態面から系統的に理解する。	
授業概要		
担当講師	永堀健太	
開講時期：単位	1 年次前期	1単位30時間
授業計画	1 回	解剖学を学ぶための基礎知識
	2 回	〃
	3 回	消化器系
	4 回	〃
	5 回	〃
	6 回	〃
	7 回	循環器系
	8 回	〃
	9 回	呼吸器系
	1 0 回	〃
	1 1 回	骨学系
	1 2 回	〃
	1 3 回	筋学系
	1 4 回	〃
	1 5 回	終講試験・まとめ
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ1巻：解剖生理学	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門基礎分野

授業科目名	解剖学Ⅱ	
科目目的・目標	人体の成り立ち・生命現象について形態面から系統的に理解する。	
授業概要		
担当講師	永堀健太	
開講時期：単位	1 年次前期	1単位30時間
授業計画	1 回	泌尿器系
	2 回	〃
	3 回	解剖見学
	4 回	〃
	5 回	内分泌系
	6 回	〃
	7 回	神経系
	8 回	〃
	9 回	感覚器
	1 0 回	〃
	1 1 回	生殖器
	1 2 回	〃
	1 3 回	復習
	1 4 回	〃
	1 5 回	終講試験・まとめ
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ1巻：解剖生理学	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門基礎分野

授業科目名	生理学 I	
科目目的・目標	人体の成り立ち・生命現象について機能面から系統的に理解する。 1. 栄養の消化と吸収に関わる臓器の機能について説明できる。 2. 呼吸器と循環器・血液を含む循環系の機能について説明できる。 3. 神経・筋細胞の一般的性質について説明できる。	
授業概要		
担当講師	田邊勇人	
開講時期：単位	1 年次前期	1単位30時間
授業計画	1 回	生理学概論 1
	2 回	生理学概論 2
	3 回	栄養の消化と吸収 1
	4 回	栄養の消化と吸収 2
	5 回	呼吸 1
	6 回	呼吸 2
	7 回	血液 1
	8 回	血液 2
	9 回	神経細胞
	1 0 回	筋収縮
	1 1 回	循環 1
	1 2 回	循環 2
	1 3 回	循環 3
	1 4 回	体温調整
	1 5 回	終講試験・まとめ
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ1巻：解剖生理学 デジタルナーシンググラフィカ3巻：病態生理学	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門基礎分野

授業科目名	生理学Ⅱ	
科目目的・目標	<p>人体で営まれる様々な生命活動を機能面から系統的に理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 泌尿器系における尿生成の過程について説明できる。</li> <li>2. 体液の調節に関与する諸系統の役割について説明できる。</li> <li>3. 内臓機能の調整に関与する内分泌系・自律神経系のはたらきについて説明できる。</li> <li>4. 免疫系・中枢神経系・感覚系の機能について説明できる。</li> <li>5. 生殖と個体発生および老化の過程について説明できる。</li> </ol>	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業はパワーポイントで作成したスライドの映写と電子黒板への板書を併用して行う。</li> <li>・講義資料はpdfファイルとして事前に共有クラウドにアップロードする。</li> <li>・必要に応じてプリントを配付する。</li> </ul>	
担当講師	上野隆治	
開講時期：単位	1年次・前期	1単位・30時間
授業計画	1回	体液調節と尿の生成 1
	2回	体液調節と尿の生成 2
	3回	体液調節と尿の生成 3
	4回	内臓機能の調整 1
	5回	内臓機能の調整 2
	6回	内臓機能の調整 3
	7回	脳の機能 1
	8回	脳の機能 2
	9回	感覚 1
	10回	感覚 2
	11回	生体防御機能
	12回	生殖・発生・老化 1
	13回	生殖・発生・老化 2
	14回	生理学Ⅱのまとめ
	15回	終講試験・まとめ
使用テキスト	デジタル・ナーシング・グラフィカ：人体の構造と機能① 解剖生理学 病態生理学	
参考書		
評価方法	終講試験の成績で評価を行うが、小テストの結果を加味する場合がある。	
その他		

## 専門基礎分野

授業科目名	生化学	
科目目的・目標	<p>[目的] からだを構成している物質の性質や生命現象を化学的な視点で学ぶ。</p> <p>[目標] 1. からだを構成している物質の構造と性質が説明できる。          2. 栄養素の代謝と生成された物質の相互作用が説明できる。          3. 遺伝情報を担う物質の働きや先天性代謝異常が説明できる。</p>	
授業概要	前半では、からだを構成している主要な物質である糖質、脂質、タンパク質、核酸などの構造や性質について学ぶ。後半では、これらの物質の代謝と生成された物質の相互作用、遺伝情報、先天性代謝異常について学ぶ。	
担当講師	門福強樹	
開講時期：単位	1 年次前期	1 単位30時間
授業計画	1 回	生化学を学ぶための基礎知識／代謝の基礎
	2 回	糖質の構造と性質
	3 回	脂質の構造と性質
	4 回	アミノ酸およびタンパク質の構造と性質
	5 回	核酸とヌクレオチド／ビタミンの種類と働き
	6 回	酵素の働きと性質
	7 回	糖質代謝（1） — 解糖・グリコーゲンの合成と分解 —
	8 回	糖質代謝（2） — 糖新生 ・血糖値の調節
	9 回	脂質代謝（1） — 脂肪酸のβ酸化・コレステロール —
	1 0 回	脂質代謝（2） — エイコサノイド・リポタンパク質 —
	1 1 回	タンパク質とアミノ酸の代謝／核酸の代謝
	1 2 回	遺伝情報（1） — 遺伝情報を担う物質・情報のコピー —
	1 3 回	遺伝情報（2） — 遺伝情報の読み取り・翻訳・解読 —
	1 4 回	遺伝子の異常／先天性代謝異常
	1 5 回	終講試験および解説
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能② 臨床生化学（メディカ出版）	
参考書	特になし。必要に応じて資料ファイルを公開する。	
評価方法	終講試験（100点）	
その他		

## 専門基礎分野

授業科目名	病態学総論（身体・精神）	
科目目的・目標	病的変化を学び疾病を理解する。 1. 細胞・組織の病的変化がわかる。 2. 病気の原因・経過・結果を通して病気の本態がわかる。 3. 精神疾患の内容を知り、患者への適切な看護がわかる。	
授業概要		
担当講師	易勤、張替歩、小橋大輔、長島大介、杉浦智子	
開講時期：単位	1 年次後期	1単位30時間
授業計画	1 回	血行障害による病変
	2 回	〃
	3 回	進行性・退行性の変化
	4 回	〃
	5 回	炎症
	6 回	〃
	7 回	腫瘍
	8 回	〃
	9 回	損傷
	1 0 回	精神医療における対象の理解
	1 1 回	精神科看護におけるケアの方法
	1 2 回	生活障がいと看護の実際
	1 3 回	〃
	1 4 回	〃
	1 5 回	終講試験・まとめ
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ3巻：病態生理学 デジタルナーシンググラフィカ40巻：精神障害と看護の実践	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門基礎分野

授業科目名	基礎薬理学	
科目目的・目標	薬理学の概念を知り、薬物の持つ特徴・作用機序・人体への影響を学ぶ。 看護師としての薬物療法の基本がわかる。	
授業概要	人体の仕組み（解剖）はたらき（生理）などの基礎医学から、疾患、原因（病態生理）、回復の方法（治療）などの臨床医学までを学習する。	
担当講師	藤井康子	
開講時期：単位	2年次前期	1単位30時間
授業計画	1回	医薬品総論（1）
	2回	医薬品総論（2）
	3回	感染症に使用する薬
	4回	免疫疾患・アレルギー・炎症に使用する薬
	5回	がんを使用する薬
	6回	末梢神経に作用する薬
	7回	脳・中枢神経系疾患で使用する薬（1）
	8回	脳・中枢神経系疾患で使用する薬（2）
	9回	循環器疾患に使用する薬（1）
	10回	循環器疾患に使用する薬（2）
	11回	血液・造血器疾患、代謝・内分泌疾患に作用する薬
	12回	呼吸器疾患・消化器系疾患に使用する薬
	13回	泌尿器・生殖器疾患、感覚器疾患に使用する薬
	14回	周術期・救命救急時に使用する薬
	15回	終講試験・まとめ
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ：臨床薬理学	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

専門基礎分野

授業科目名	微生物学	
科目目的・目標	<p>・病原微生物の特徴と生体防御機構について理解する。「敵（病原性微生物）を知るために自身の武器（生体防御機構）を学ぶ」</p> <p>1. 病原性微生物の特徴を理解することができる。</p> <p>2. 生体防御機構を理解することができる。</p> <p>3. 感染症を理解することができる。</p> <p>4. 感染症に対する標準予防策および新興感染症に対する感染対策を理解することができる。</p>	
授業概要	病原性微生物の特徴を理解する上で重要な「生体防御学」について、細胞学・生物学・生理学の観点より基本概念を学ぶ。患者の状態（年齢・性別・疾患など）により変化する生体防御機構と病原微生物による感染症との関係について応用力を養う。	
担当講師	小林憲忠	
開講時期：単位	1 年次後期	1単位30時間
授業計画	<p>1 回 病原性微生物とは？生命の成り立ち</p> <p>2 回 生体防御機構とは？食べる？・壊す？・捨てる？</p> <p>3 回 第1次バリアー（生まれもって持つしくみ）とは？</p> <p>4 回 第2次バリアー（生まれてから持つしくみ）とは？</p> <p>5 回 第3次バリアー（精度を極めたしくみ）とは？</p> <p>6 回 生体防御機構は、「諸刃の剣」？：自己免疫とアレルギー</p> <p>7 回 病原性微生物学総論</p> <p>8 回 細菌学各論（1）</p> <p>9 回 細菌学各論（2）</p> <p>10 回 真菌学各論（1）</p> <p>11 回 原虫・寄生虫学（1）</p> <p>12 回 ウィルス学総論</p> <p>13 回 ウィルス学各論</p> <p>14 回 再興感染症・新興感染症・感染症分類・予防対策</p> <p>15 回 終講試験・まとめ</p>	
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ：臨床微生物・医動物	
参考書		
評価方法	小試験（30%）および終講試験（70%）	
その他	手指消毒ならびに標準予防策（standard precautions：スタンダード・プリコーション）を理解するための細菌検査用培地を用いての実習講義	



## 専門基礎分野

授業科目名	臨床検査	
科目目的・目標	疾病の回復を促進するための診断、治療、検査として臨床検査の原理について学ぶ	
授業概要		
担当講師	石橋佳明	
開講時期：単位	2年次前期	1単位15時間
授業計画	1回	臨床検査とその役割
	2回	臨床検査の流れと検査の準備・検体の取り扱い
	3回	臨床検査に伴う危険とその防止
	4回	一般検査・血液学的検査
	5回	化学検査
	6回	免疫血清内分泌学的検査
	7回	生体検査
	8回	終講試験
	9回	
	10回	
	11回	
	12回	
	13回	
	14回	
	15回	
	使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ：EX3巻 疾患と看護 消化器 デジタルナーシンググラフィカ20巻：基礎看護技術Ⅱ
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門基礎分野

授業科目名	臨床栄養学																																	
科目目的・目標	看護職として必要となる健康の保持・増進のための食品や料理の選択に関する基本的な知識を学ぶ。 1. 看護職が栄養学を学ぶ意義について説明できる。 2. 栄養素の分類，体内における役割を説明できる。 3. 栄養アセスメントの種類とその方法について説明できる。 4. 療養生活において必要となる特別な食事，食生活について説明できる。																																	
授業概要																																		
担当講師	石川香織 津坂美保																																	
開講時期：単位	1 年次後期	1単位30時間																																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1 回</td> <td>栄養学を看護職が学ぶ意義と目的（1）【栄養，栄養素，栄養素の分類】</td> </tr> <tr> <td>2 回</td> <td>栄養学を看護職が学ぶ意義と目的（2）【栄養，栄養素，栄養素の分類】</td> </tr> <tr> <td>3 回</td> <td>日常生活と栄養現代の食生の特徴と課題、食環境整備、食育の考え方と意義</td> </tr> <tr> <td>4 回</td> <td>食品成分 日本人の食事摂取基準</td> </tr> <tr> <td>5 回</td> <td>ライフステージ栄養学（1）</td> </tr> <tr> <td>6 回</td> <td>ライフステージ栄養学（2）</td> </tr> <tr> <td>7 回</td> <td>栄養アセスメント チーム医療 療養生活と栄養（1）</td> </tr> <tr> <td>8 回</td> <td>療養生活と栄養（2）</td> </tr> <tr> <td>9 回</td> <td>療養生活と栄養（3）</td> </tr> <tr> <td>1 0 回</td> <td>栄養食事管理（1）（疾患別の栄養食事療法）</td> </tr> <tr> <td>1 1 回</td> <td>栄養食事管理（2）（疾患別の栄養食事療法）</td> </tr> <tr> <td>1 2 回</td> <td>栄養食事指導の実際（演習）</td> </tr> <tr> <td>1 3 回</td> <td>栄養食事指導の実際（演習）</td> </tr> <tr> <td>1 4 回</td> <td>栄養食事管理（3）（疾患別の栄養食事療法）臨床栄養まとめ</td> </tr> <tr> <td>1 5 回</td> <td>終講試験（解説）</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>		1 回	栄養学を看護職が学ぶ意義と目的（1）【栄養，栄養素，栄養素の分類】	2 回	栄養学を看護職が学ぶ意義と目的（2）【栄養，栄養素，栄養素の分類】	3 回	日常生活と栄養現代の食生の特徴と課題、食環境整備、食育の考え方と意義	4 回	食品成分 日本人の食事摂取基準	5 回	ライフステージ栄養学（1）	6 回	ライフステージ栄養学（2）	7 回	栄養アセスメント チーム医療 療養生活と栄養（1）	8 回	療養生活と栄養（2）	9 回	療養生活と栄養（3）	1 0 回	栄養食事管理（1）（疾患別の栄養食事療法）	1 1 回	栄養食事管理（2）（疾患別の栄養食事療法）	1 2 回	栄養食事指導の実際（演習）	1 3 回	栄養食事指導の実際（演習）	1 4 回	栄養食事管理（3）（疾患別の栄養食事療法）臨床栄養まとめ	1 5 回	終講試験（解説）		
1 回	栄養学を看護職が学ぶ意義と目的（1）【栄養，栄養素，栄養素の分類】																																	
2 回	栄養学を看護職が学ぶ意義と目的（2）【栄養，栄養素，栄養素の分類】																																	
3 回	日常生活と栄養現代の食生の特徴と課題、食環境整備、食育の考え方と意義																																	
4 回	食品成分 日本人の食事摂取基準																																	
5 回	ライフステージ栄養学（1）																																	
6 回	ライフステージ栄養学（2）																																	
7 回	栄養アセスメント チーム医療 療養生活と栄養（1）																																	
8 回	療養生活と栄養（2）																																	
9 回	療養生活と栄養（3）																																	
1 0 回	栄養食事管理（1）（疾患別の栄養食事療法）																																	
1 1 回	栄養食事管理（2）（疾患別の栄養食事療法）																																	
1 2 回	栄養食事指導の実際（演習）																																	
1 3 回	栄養食事指導の実際（演習）																																	
1 4 回	栄養食事管理（3）（疾患別の栄養食事療法）臨床栄養まとめ																																	
1 5 回	終講試験（解説）																																	
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ：臨床栄養学																																	
参考書	講義：資料及び実力確認プリント（国家試験対）を配布																																	
評価方法	出席状況 講義：筆記試験 実習：レポート																																	
その他																																		

専門基礎分野

授業科目名	治療論	
科目目的・目標	病気の本態を踏まえて主たる治療の方法と原則を理解する。	
授業概要		
担当講師	田邊勇人 佐藤まゆみ 佐藤慎一郎 吉田一也	
開講時期：単位	1 年次後期	1 単位30時間
授業計画	1 回	放射線医学の成り立ちと意義
	2 回	画像診断（X線診断、CT、MRI、超音波診断、血管造影、核医学検査）
	3 回	画像診断における看護師の役割
	4 回	放射線治療における看護師の役割
	5 回	放射線治療における有害反応と看護（放射線皮膚炎、粘膜炎、放射線宿酔、骨髄抑制）
	6 回	全身麻酔・局所麻酔について（麻酔薬・麻酔補助薬含む）
	7 回	手術および麻酔侵襲と生体反応
	8 回	輸液・輸血管管理・化学療法
	9 回	リハビリテーションの概要
	1 0 回	中枢神経疾患のリハビリテーション（脳血管障害の理学療法評価）
	1 1 回	中枢神経疾患のリハビリテーション（脳血管障害の運動療法）
	1 2 回	中枢神経疾患のリハビリテーション（パーキンソン病の理学療法）
	1 3 回	運動器疾患のリハビリテーション（骨折の理学療法）
	1 4 回	運動器疾患のリハビリテーション（関節症・関節リウマチの理学療法）
	1 5 回	終講試験・まとめ
	使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ：疾病と治療 デジタルナーシンググラフィカ：リハビリテーション看護
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門基礎分野

授業科目名	腎・泌尿器・内分泌、代謝疾患と看護	
科目目的・目標	腎・泌尿器・内分泌に関する病態・診断・治療について学び看護を展開する基礎的知識を習得する。	
授業概要		
担当講師	中川崇 津坂美保	
開講時期：単位	1 年次後期	1 単位30時間
授業計画	1 回	腎・泌尿器の構造と機能
	2 回	腎・泌尿器疾患の症状と病態生理
	3 回	腎・泌尿器疾患の症状と病態生理
	4 回	腎・泌尿器疾患の症状と病態生理
	5 回	腎・泌尿器疾患の看護
	6 回	腎・泌尿器疾患の看護
	7 回	男性生殖器の構造と機能・男性生殖器疾患の症状と病態生理
	8 回	男性生殖器疾患の看護
	9 回	内分泌代謝器官の構造と機能
	1 0 回	内分泌代謝関連疾患の症状と病態生理
	1 1 回	内分泌代謝関連疾患の症状と病態生理
	1 2 回	内分泌・代謝疾患の看護
	1 3 回	内分泌・代謝疾患の看護
	1 4 回	内分泌・代謝疾患の看護
	1 5 回	終講試験・まとめ
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ12巻：内部環境調節機能障害/性・生殖機能障害 デジタルナーシンググラフィカ8巻：栄養代謝機能障害 デジタルナーシンググラフィカ：EX8巻 疾患と看護 腎/泌尿器/内分泌・代謝	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門基礎分野

授業科目名	運動器、脳・神経疾患と看護	
科目目的・目標	運動器・脳神経に関する病態・診断・治療について学び看護を展開する基礎的知識を習得する。	
授業概要		
担当講師	神成文裕 織田徹也 猪野裕通 渡邊丈博 吉田一哉 田代小春	
開講時期：単位	1 年次後期	1 単位30時間
授業計画	1 回	脳神経の構造と機能
	2 回	脳・神経疾患の症状と病態生理
	3 回	脳・神経疾患の症状と病態生理
	4 回	脳・神経疾患の症状と病態生理
	5 回	脳・神経疾患の症状と病態生理
	6 回	脳・神経疾患の看護
	7 回	脳・神経疾患の看護
	8 回	脳・神経疾患の看護
	9 回	運動器の構造と機能
	1 0 回	運動器疾患の症状と病態生理
	1 1 回	運動器疾患の症状と病態生理
	1 2 回	運動器疾患の症状と病態生理
	1 3 回	運動器疾患の看護
	1 4 回	運動器疾患の看護
	1 5 回	終講試験・まとめ
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ10巻：脳神経機能障害/感覚機能障害 デジタルナーシンググラフィカ：EX5巻 疾患と看護 脳・神経 デジタルナーシンググラフィカ：EX7巻 疾患と看護 運動器	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門基礎分野

授業科目名	呼吸器・循環器疾患と看護	
科目目的・目標	呼吸器に関する病態・診断・治療について学び看護を展開する基礎的知識を習得する。	
授業概要		
担当講師	仙波宏章 田邊勇人 吉田一哉	
開講時期：単位	1 年次後期	1 単位30時間
授業計画	1 回	呼吸器の構造と機能
	2 回	呼吸器疾患の症状と病態生理
	3 回	呼吸器疾患の症状と病態生理
	4 回	呼吸器疾患の症状と病態生理
	5 回	呼吸器疾患の看護
	6 回	呼吸器疾患の看護
	7 回	呼吸器疾患の看護
	8 回	循環器の構造と機能
	9 回	循環器疾患の症状と病態生理
	1 0 回	循環器疾患の症状と病態生理
	1 1 回	循環器疾患の症状と病態生理
	1 2 回	循環器疾患の看護
	1 3 回	循環器疾患の看護
	1 4 回	循環器疾患の看護
	1 5 回	終講試験・まとめ
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ7巻：呼吸機能障害/循環機能障害 デジタルナーシンググラフィカ：EX1巻 疾患と看護 呼吸器 デジタルナーシンググラフィカ：EX2巻 疾患と看護 循環器	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門基礎分野

授業科目名	消化器疾患と看護	
科目目的・目標	消化器に関する病態・診断・治療について学び看護を展開する基礎的知識を習得する。	
授業概要		
担当講師	済陽義久 武井章矩 玉井 恒憲 井原健 津坂美保	
開講時期：単位	1 年次後期	1 単位30時間
授業計画	1 回	消化器の構造と機能
	2 回	消化器の構造と機能
	3 回	消化器疾患の症状と病態生理
	4 回	消化器疾患の症状と病態生理
	5 回	消化器疾患の症状と病態生理
	6 回	消化器疾患の症状と病態生理
	7 回	消化器疾患の症状と病態生理
	8 回	消化器疾患の症状と病態生理
	9 回	消化器疾患の看護
	1 0 回	消化器疾患の看護
	1 1 回	消化器疾患の看護
	1 2 回	消化器疾患の看護
	1 3 回	消化器疾患の看護
	1 4 回	消化器疾患の看護
	1 5 回	終講試験・まとめ
	使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ8巻：栄養代謝機能障害 デジタルナーシンググラフィカ：EX3巻 疾患と看護 消化器
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 分野

授業科目名	性・生殖器疾患と看護	
科目目的・目標	性・生殖器に関する病態・診断・治療について学び看護を展開する基礎的知識を習得する。	
授業概要		
担当講師	中川崇 伊藤和世	
開講時期：単位	1 年次後期	1 単位15時間
授業計画	1 回	性・生殖器の構造と機能
	2 回	性・生殖器疾患の症状と病態生理
	3 回	性・生殖器疾患の症状と病態生理
	4 回	性・生殖器疾患の症状と病態生理
	5 回	性・生殖器疾患の看護
	6 回	性・生殖器疾患の看護
	7 回	セクシュアリティに関連する健康課題
	8 回	終講試験
	9 回	
	1 0 回	
	1 1 回	
	1 2 回	
	1 3 回	
	1 4 回	
	1 5 回	
	使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ12巻：内部環境調整機能障害/性・生殖機能障害 デジタルナーシンググラフィカ：EX9巻 疾患と看護 女性生殖器 デジタルナーシンググラフィカ：EX8巻 疾患と看護 腎/泌尿器/内分泌・代謝
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		



## 専門基礎分野

授業科目名	血液・免疫・感覚器・歯、口腔疾患と看護	
科目目的・目標	血液・免疫・感覚器・歯、口腔疾患に関する病態・診断・治療について学び看護を展開する基礎的知識を習得する。	
授業概要		
担当講師	中川崇 津坂美保	
開講時期：単位	1 年次後期	1 単位15時間
授業計画	1 回	感覚器・歯、口腔の構造と機能
	2 回	感覚器・歯、口腔疾患の症状と病態生理
	3 回	感覚器・歯、口腔疾患の看護
	4 回	血液の組成と機能・免疫に関わる器官と機能
	5 回	血液・免疫疾患の症状と病態生理
	6 回	血液・免疫疾患の症状と病態生理
	7 回	血液・免疫疾患の看護
	8 回	終講試験
	9 回	
	1 0 回	
	1 1 回	
	1 2 回	
	1 3 回	
	1 4 回	
	1 5 回	
	使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ9巻：造血機能障害/免疫機能障害 デジタルナーシンググラフィカ：EX4巻 疾患と看護 血液/アレルギー・膠原病/感染症 デジタルナーシンググラフィカ：EX6巻 疾患と看護 眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚 デジタルナーシンググラフィカ8巻：栄養代謝機能障害
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門基礎分野

授業科目名	小児・高齢者の疾患と看護	
科目目的・目標	小児と高齢者に特有な疾患に関する病態・診断・治療について学び看護を展開する基礎的知識を習得する。	
授業概要		
担当講師	田邊勇人	
開講時期：単位	1 年次後期	1 単位30時間
授業計画	1 回	新生児疾患・遺伝性疾患・染色体異常の病態と看護
	2 回	小児の代謝・内分泌・免疫・アレルギー疾患の病態と看護
	3 回	小児の呼吸器・循環器疾患の病態と看護
	4 回	小児の腎泌尿器・血液疾患の病態と看護
	5 回	小児の消化器疾患の病態と看護
	6 回	小児の筋、神経、精神疾患の病態と看護、小児感染症看護
	7 回	小児外科疾患と看護
	8 回	高齢者の呼吸器・循環器疾患の看護
	9 回	高齢者に特徴的な疾患（パーキンソン）の病態と看護
	1 0 回	認知症の病態生理と症状
	1 1 回	認知症の看護
	1 2 回	認知症の看護
	1 3 回	高齢者の運動器疾患（骨粗鬆症・変形性関節症・脊柱管狭窄症など）の病態と症状
	1 4 回	高齢者の運動器疾患（骨粗鬆症・変形性関節症・脊柱管狭窄症など）の看護
	1 5 回	終講試験まとめ
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ35巻：小児の疾患と看護 デジタルナーシンググラフィカ31巻：高齢者の健康と障害 デジタルナーシンググラフィカ32巻：高齢者看護の実践	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門基礎分野

授業科目名	チーム医療論	
科目目的	<p>看護専門職として、保健医療福祉を含めた総合的なサービスを提供するために、病気や障害を抱えた対象の問題に対してどのようにチームアプローチをするかを学ぶ。また、他の専門職種や職種間コミュニケーションについても概観する。</p> <p>1. 保健医療チームにおける多職種の役割を理解し、患者の安全かつ良質な医療の提供と、療養上の課題解決のための医療従事者の連携・協働の必要性とチーム医療の実際が理解できる。</p> <p>2. 専門職としての看護師の役割を学ぶとともに、将来、チーム医療メンバーとして活動するために必要なコミュニケーションの基本を修得する。</p>	
科目目標		
担当講師	遠藤貞子 石橋佳明 浅見美雪 相原史 岡田紘平 古口綾奈	
開講時期：単位	2年次前期	1単位15時間
授業計画	1回	チーム医療の定義・目的・医療を取り巻く社会の変化
	2回	チーム医療を支える職種とチーム医療の発展
	3回	チームケア実践のための各専門職の能力
	4回	チーム医療の実際：臨床検査との連携
	5回	チーム医療に必要な能力
	6回	看護組織におけるチーム医療
	7回	患者の立場からチーム医療を考える
	8回	終講試験
	9回	
	10回	
	11回	
	12回	
	13回	
	14回	
	15回	
使用テキスト		
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門基礎分野

授業科目名	看護をめぐる法と制度	
科目目的・目標	<p>法の基本的概念を知り、基本的人権の擁護と医療の結びつきを知る。医療・看護が法律の中で規定されている事柄と看護行為を関連させて学ぶ。</p> <p>1. 法の知識と法令について理解することができる。</p> <p>2. 法律で規定されている看護婦の業務や責任について理解することができる。</p> <p>3. 看護師として知っておきたい関連法規について理解することができる。</p>	
授業概要		
担当講師	外山美砂子	
開講時期：単位	2年次後期	1単位15時間
授業計画	1回	憲法の意義
	2回	医療に関する法律
	3回	看護職に関する法律
	4回	関連職種に関する法律
	5回	保健活動の基盤となる法律（地域保健法・健康増進法・学校保健等）
	6回	生活に関する法律（地球環境・食品・廃棄物・住環境・職場）
	7回	医療サービス提供の基盤となる法律（医薬品）
	8回	終講試験
	9回	
	10回	
	11回	
	12回	
	13回	
	14回	
	15回	
	使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ16巻：社会福祉と社会保障制度
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門基礎分野

授業科目名	暮らしの中の健康を支援する看護	
科目目的・目標	地域に生活する個人、家族、集団、組織、全てを対象とし、健康レベルと地域特性に応じた健康の保持増進や疾病や健康問題の発生子防と回復に向けた支援を行うための看護の基礎を学ぶ。 1. 生活者としての対象と健康に関連する背景、健康支援のための基本的理念を理解する 2. 地域における健康とは何か、さらに保健活動の歴史と今後の方向性について理解する 3. 生活者である対象への健康支援の意義について理解し、健康教育が実践できる	
授業概要		
担当講師	折田誠子	
開講時期：単位	2年次後期	1単位30時間
授業計画	1回	わが国の医療提供の特徴と看護政策決定過程
	2回	ヘルスプロモーション・日本の健康増進対策
	3回	社会生活基盤と健康（保健統計：人口動態）
	4回	労働と健康
	5回	学校保健
	6回	産業保健
	7回	地域保健における保健活動
	8回	地域アセスメント
	9回	地域ヘルスケアシステムづくり
	10回	対象特性別保健活動：成人・高齢者保健・障害者
	11回	対象特性別保健活動：母子保健・精神保健
	12回	地域特性を活かした保健活動
	13回	ポピュレーションアプローチ・ハイリスクアプローチ
	14回	健康教育の実際（演習、フィールドワーク）
	15回	試験・まとめ
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ14巻：健康生活と看護	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門基礎分野

授業科目名	看護で活用する社会保障制度（保健・医療・福祉）	
科目目的・目標	<p>人々の健康を支えている医療と保健・福祉の相互に連携、保健医療福祉行政と社会保障制度の仕組みと役割及び健康をめぐる相互の連携や協働について学ぶ。</p> <p>1. 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間について理解する。</p> <p>2. 社会保障の理念と基本的な制度の考え方を理解する</p> <p>3. 生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題を理解する。</p>	
授業概要		
担当講師	奥山和美	
開講時期：単位	2 年次後期	1 単位30時間
授業計画	1 回	社会保障の意義及び目的
	2 回	社会保障の歴史、理念、制度の骨格
	3 回	看護と社会保障
	4 回	社会保障が抱える問題と対応
	5 回	医療保険
	6 回	医療保険
	7 回	公的年金
	8 回	雇用保険
	9 回	公的扶助(生活保護)と社会福祉（社会福祉法、社会福祉事業）
	1 0 回	公的扶助の概要
	1 1 回	母子・児童福祉の概要
	1 2 回	障害者福祉の概要
	1 3 回	高齢者福祉の概要
	1 4 回	社会保障の給付と財源（社会保障給付費の推移、国際比較等）
	1 5 回	終講試験・まとめ
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ16巻：社会福祉と社会保障制度	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門基礎分野

授業科目名	社会資源コーディネート論	
科目目的	<p>看護サービスを効率的・効果的に提供するために必要な看護マネジメントの機能およびその際に必要な社会資源について学ぶ。またそれを基に、そのあり方についての考察を深める。</p> <p>1. 保健・医療・福祉領域の社会資源 について理解できる。</p> <p>2. 集団および個人の抱えている健康生活上の諸問題に対応した、社会資源の活用の実際がわかる。</p>	
科目目標		
担当講師	松浦彰久 和田佐知子	
開講時期：単位	2年次前期	1単位15時間
授業計画	1回	社会資源とは
	2回	フォーマル・インフォーマル資源
	3回	ソーシャルネットワークと社会資源
	4回	地域包括ケアシステム
	5回	社会資源活用における看護師の役割
	6回	地域の社会資源
	7回	フィールドワーク社会資源を探そう
	8回	終講試験
	9回	
	10回	
	11回	
	12回	
	13回	
	14回	
	15回	
使用テキスト	<p>デジタルナーシンググラフィカ16巻：社会福祉と社会保障</p> <p>デジタルナーシンググラフィカ14巻：健康と社会生活</p>	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門基礎分野

授業科目名	公衆衛生・看護疫学（統計）	
科目目的・目標	公衆衛生看護の概要と社会的機能、活動目的・理念、対象や展開方法の特性を理解する 1. 公衆衛生看護の発生と発展過程を学び、公衆衛生看護の社会的機能を理解する。 2. 公衆衛生看護の定義、目的、役割、理念について理解する。 3. 疫学的な視点（データ収集分析）に基づき公衆衛生看護（保健統計）の実際がわかる。	
授業概要		
担当講師	吉原素子 松森大輔	
開講時期：単位	2年次前期	1単位30時間
授業計画	1回	公衆衛生とは
	2回	公衆衛生看護の歴史
	3回	人口動態（粗死亡率、年齢調整死亡率・標準化死亡比や保健統計）
	4回	疫学的方法に基づく公衆衛生
	5回	公衆衛生における感染症と対策
	6回	〃
	7回	公衆衛生における生活環境と問題への対策
	8回	看護疫学とは
	9回	疫学に基づく統計
	10回	〃
	11回	〃
	12回	〃
	13回	〃
	14回	〃
	15回	終講試験・まとめ
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ15巻：公衆衛生	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他	疫学：明確に規定された人間集団の中で出現する健康関連の色々な事象の頻度と分布及びそれらに影響を与える要因を明らかにして、健康関連の諸問題に対する有効な対策樹立に役立てる為の科学	



## 専門分野

授業科目名	看護学概論	
科目目的・目標	<p>学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護における歴史的背景と概念、看護の定義について学ぶ</li> <li>2 看護組織、寛喜実践基準について理解する。</li> <li>3 健康と病気モデル、健康と病気に影響する要因、健康増進と病気の予防を理解する。</li> <li>4 看護の対象(総合体としての人間の特性、健康障害を持つ対象の捉え方を理解する。</li> </ol>	
授業概要	<p>・看護概論は看護学の土台であり基礎看護学に位置し、看護学を履修する学生が最初に学習する専門科目であり、看護学全体の基本的内容を含んでいる。内容は看護に関する過去と現在、および未来の見通しを伝え、看護学の本質を理解し、看護学の豊かさや奥深さをイメージし、興味・関心や、各領域の看護学への学習意欲を高める為の科目である。看護の基本概念(人間、健康、環境、看護)の理解を踏まえ、看護学の知識体系を理解し、看護の役割と機能について学ぶ等、より患者の視点に立った質の高い看護を提供できる看護者の育成を目指した基盤となる科目です。看護が持つ役割や看護の主要概念について理解、保健医療福祉の専門則として、人々の健康・生活のアプローチについて学習する。それにより当校のデプロマシーとの関連は ①対象を全人間的に理解し、科学的な根拠に基づき、安全・安楽な自律に導く看護を実践できる能力 ②社会における看護の役割を認識し、保健医療福祉チームの一員として機能できる能力 ③看護者として倫理観に基づく行動がとれる能力 ④自己研鑽し働き続けられる能力を身に付ける。これらの能力を培う科目である。</p>	
担当講師	遠藤貞子	
開講時期：単位	1 年次前期	1単位30時間
授業計画	1 回	看護への導入：1) 看護のねらい 看護とは？看護の役割
	2 回	看護への導入：看護は何を行うのか？看護師の役割と機能・実践 事例から考える p 22～
	3 回	看護への導入：実践のための基準と教育の制度
	4 回	就職ガイダンスに参加 看護の対象とその理解 1) 対象が取り巻く環境と病院組織について学ぶ 2) 対象が主として治療療養する病院を知る。
	5 回	5月28日実施の就職ガイダンスに参加し病院の機能やシステム 入院療養環境、医療看護提供方式、看護師の教育環境 職場環境を知り、看護師の役割や職業意識を高める。
	6 回	看護導入：看護の歴史の変遷 ①近代以前の看護 ②近代の看護③現代の看護p43
	7 回	現代社会における看護のあり方P55 1) 看護に対する社会の要望と期待
	8 回	看護の対象とその理解 1) 総合体としての人間理解と社会P70 文化的存在としての人間 2) 健康障害を持つ対象の理解
	9 回	健康と病気におけるウェルネスの促進①P96-105 1) 病気のとらえ方 2) 健康の諸相に影響する要因 3) 人々の生活と健康 4) 健康増進に向けた看護師の役割
	1 0 回	5) 健康増進に向けた看護師の役割
	1 1 回	看護における法的側面 1) 看護実践の法的規則 2) 看護実践に及ぼす法律P206 看護の展望と継続性 1、看護の継続性と継続看護 2 他職種連携・協働における看護 これからの看護の課題と展望 1) 看護に求められる教育P313
	1 2 回	「私達が考える、看護師の責務や役割について」①groupworkの考えをまとめ発表 テーマ：「私が考える看護観について」②自身の考えをレポート提出
	1 3 回	ナイチンゲールの看護論について学ぶ、ナイチンゲール研究所 所長金井一薫 「ナイチンゲールの看護論について」③レポート課題提出
	1 4 回	
	1 5 回	試験
使用テキスト	ナーシンググラフィカ①看護学概論 まとめてわかる看護学概論メデカ出版	
参考書	フローレンスナイチンゲール：看護の覚え書き 日本看護協会出版会	
評価方法	試験70% 課題レポート15点×2 出席状況	
その他		

## 専門分野

授業科目名	看護理論	
科目目的・目標	<p>この科目では、科学的根拠に基づく看護学の基盤である看護理論について、対象のニーズの充足に注目したヘンダーソンを中心とし、その他の代表的な理論を通して、その理論の源泉や看護のとらえ方、人間観について学ぶ。また、看護実践に看護理論をどのように活用できるかを学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護理論を学ぶことの意義を説明できる。</li> <li>2. 理論の分類と特徴を述べるができる。</li> <li>3. 主な看護理論の歴史的背景と特徴を説明できる。</li> <li>4. 看護理論の実践への活用を説明できる。</li> </ol>	
授業概要	F. ナイチンゲール、V. ヘンダーソン、D. オレムを学習し、看護のとらえ方や看護実践への活用方法を理解する。	
担当講師	中安ゆかり	
開講時期：単位	1 年次前期	1単位30時間
授業計画	1 回	看護理論の特徴と役割 ・看護理論活用の目的
	2 回	ナイチンゲールの看護論・理論の歴史的背景と特徴
	3 回	ナイチンゲールの看護論
	4 回	ナイチンゲールの看護論
	5 回	ナイチンゲールの看護論
	6 回	ナイチンゲールの看護論
	7 回	ヘンダーソンの看護論
	8 回	ヘンダーソンの看護論
	9 回	ヘンダーソンの看護論
	1 0 回	ヘンダーソンの看護論
	1 1 回	ヘンダーソンの看護論
	1 2 回	ヘンダーソンの看護論
	1 3 回	オレムの看護論
	1 4 回	オレムの看護論
	1 5 回	試験・まとめ
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ18巻 看護学概論 看護覚え書 F. ナイチンゲール 看護の基本となるもの V. ヘンダーソン	メディカ出版 日本看護協会出版会 日本看護協会出版会
参考書		
評価方法		
その他		

## 専門分野

授業科目名	看護倫理	
科目目的・目標	倫理原則及び看護実践上の倫理的概念を理解し、看護実践において生じやすい倫理的問題とその問題へのアプローチ方法について理解を深める。 1. 倫理・看護倫理の定義を説明できる。 2. 多様な価値基準があることに気づきを示すことができる。 3. 倫理原則、重要な倫理概念を説明できる。 4. 倫理的意思決定のプロセスにおいて、倫理原則や看護実践上の重要な倫理概念を適用することができる。 5. 自己の価値観を認め、他者の価値観を尊重する態度を示すことができる。	
授業概要	看護を実践していくために必要な倫理を習得する。	
担当講師	中安ゆかり	
開講時期：単位	1 年次前期	1単位15時間
授業計画	1 回	看護倫理と歴史の変遷
	2 回	倫理原則とケアの倫理
	3 回	看護実践上の倫理的概念（ケアリング、アドボカシー）
	4 回	看護実践における倫理的意思決定のプロセス
	5 回	看護実践上の倫理問題に関する事例分析
	6 回	看護実践上の倫理問題に関する事例分析
	7 回	看護実践上の倫理問題に関する事例分析
	8 回	終講試験
	9 回	
	1 0 回	
	1 1 回	
	1 2 回	
	1 3 回	
	1 4 回	
	1 5 回	
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ18巻 看護学概論 メディカ出版	
参考書		
評価方法		
その他		

## 専門分野

授業科目名	ケアリング論		
科目目的・目標	<p>人間性の尊厳と多様性を尊重し、深い人間理解を基盤とした看護実践のための基礎的能力を養う。</p> <p>1. ケアリングの概要を理解し説明できる。</p> <p>2. 自分なりのヒューマンケア観を概念化し、表現できる。</p>		
授業概要	M. メイヤロフやJ. ワトソンが述べるケアリング論を通して、看護実践に活用するための基礎的な知識を習得する。		
担当講師	大橋恵美子		
開講時期：単位	1 年次後期	1単位15時間	
授業計画	1回	ケアリングの概念（ケアとケアリング、看護との関係に関する概説）	講義
	2回	ケアの本質（メイヤロフ）に学ぶ①	講義
	3回	ケアの本質（メイヤロフ）に学ぶ②	講義
	4回	ヒューマンケアの理解：患者・家族・医療・看護者間のヒューマンケア	講義
	5回	看護実践の基盤となる看護理論とその特徴 ケアリング論：ワトソン	講義
	6回	理論を活用した看護実践におけるケアリング①	GW
	7回	理論を活用した看護実践におけるケアリング②	GW
	8回	試験	
	9回		
	10回		
	11回		
	12回		
	13回		
	14回		
	15回		
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ18巻 看護学概論 メディカ出版		
参考書	<p>ミルトン・メイヤロフ「ケアの本質」ゆみる出版</p> <p>ジーン・ワトソン「ワトソン看護論」医学書院</p>		
評価方法	レポート評価		
その他			

## 専門分野

授業科目名	看護基本技術	
科目目的・目標	技術の原理原則を学び、技能としての基礎的看護技術を習得する。 1. 看護技術の正確な方法がを理解し、実施することができる。	
授業概要	感染予防や安全確保の方法や、対象が快適に療養することができるように整えるために必要な知識・技術・態度を習得する。 対象に必要なヘルスアセスメントを実施するために必要な技術を身に着ける。 医療・看護の場で、必要なコミュニケーション技術を身に着ける。	
担当講師	田代小春 和田佐知子	
開講時期：単位	1年次前期	1単位30時間
授業計画	1回	看護技術とは・感染防止の技術
	2回	スタンダードプリコーション（演習）
	3回	感染防止の技術（演習）
	4回	安全確保の技術
	5回	環境調整技術・ボディメカニクス
	6回	ベッドメイキング演習
	7回	ベッドメイキング演習
	8回	計測（講義・演習）
	9回	バイタルサイン測定
	10回	バイタルサイン測定（演習）
	11回	バイタルサイン測定（演習）
	12回	看護・医療コミュニケーション
	13回	コミュニケーション・ロールプレイ
	14回	コミュニケーション・ロールプレイ
	15回	終講試験・まとめ
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ19巻 基礎看護技術Ⅰ メディカ出版 デジタルナーシンググラフィカ20巻 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版	
参考書		
評価方法	演習レポート：20% 試験：80%	
その他		

## 専門分野

授業科目名	診療の補助を支える看護技術 1	
科目目的・目標	診療の補助技術の原理原則を学び、技能としての基礎的看護技術を習得する。 1. 診療の補助に伴う技術の正確な方法がを理解し、実施することができる。	
授業概要	本授業では、与薬の技術と生体・症状機能管理技術としての生体管理技術を学ぶ。これらの技術は身体への侵襲性の高いため、生命に対して高いリスクを持つ。このため、正確な技術を熟知して実施することができるようにする。	
担当講師	田代小春 片岡彩	
開講時期：単位	1年次後期	1単位30時間
授業計画	1回	診察・検査に伴う援助技術
	2回	生体検査
	3回	検体検査
	4回	与薬と看護①
	5回	与薬と看護②
	6回	与薬と看護③
	7回	与薬と看護④
	8回	与薬と看護⑤
	9回	筋肉内注射（演習）
	10回	筋肉内注射（演習）
	11回	与薬と看護⑥
	12回	点滴（演習）
	13回	点滴（演習）
	14回	中心静脈栄養の管理、輸血の管理
	15回	試験
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ20巻 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版	
参考書		
評価方法		
その他		

## 専門分野

授業科目名	診療の補助を支える看護技術 2	
科目目的・目標	診療の補助技術の原理原則を学び、技能としての基礎的看護技術を習得する。 1. 診療の補助に伴う技術の正確な方法がを理解し、実施することができる。	
授業概要	診療の補助のうち、生命維持に必要な正常に呼吸をする・適切に飲食する・あらゆる排泄経路から排泄するという欲求を満たすことができない場合に必要な看護技術を習得する。 本授業では、正常なガス交換を行うために、酸素吸入や排痰援助（吸引・吸入・大尉ドレナージ等）、生理的な排泄に向けた援助として、導尿や浣腸・摘便を習得する。	
担当講師	城所木綿子	
開講時期：単位	1年次後期	1単位20時間
授業計画	1回	酸素吸入法・吸引・吸入
	2回	酸素吸入法・吸引・吸入（演習）
	3回	排痰ケア
	4回	排痰ケア（演習）体位ドレナージ・咳嗽介助
	5回	経管栄養
	6回	経管栄養（演習）
	7回	導尿・浣腸・摘便
	8回	導尿・浣腸・摘便（演習）
	9回	導尿・浣腸・摘便（演習）
	10回	試験・まとめ
	11回	
	12回	
	13回	
	14回	
	15回	
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ20巻 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版	
参考書		
評価方法		
その他		

## 専門分野

授業科目名	生活を整える看護技術（環境調整技術・活動休息技術）	
科目目的・目標	人間の生活における環境の意義と環境を整える方法を学び、対象が安全安楽に過ごすことができる援助技術を習得する。 1. 人間と環境の相互関係について理解することができる。 2. 環境を整えるための基礎的技術を身につけることができる。 3. 療養環境をアセスメントし、対象の状態に応じた援助ができる。 4. 活動と休息のバランスとそれらが生活に及ぼす影響を理解することができる。	
授業概要	看護を学ぶ学生に必要な「環境」について考えることができる知識を身につけ、病床にある患者が快適に過ごすことができる技術を習得する。 人間の基本的な姿勢や体位について学び、ボディメカニクスを活用した体位変換や移動技術を習得する。 対象の安楽に向けた技術について学び、安楽に向けた技術を習得する。	
担当講師	中安ゆかり 大出幸子	
開講時期：単位	2年次前期	1単位30時間
授業計画	1回	生活と環境
	2回	対象に応じた環境整備（演習）
	3回	対象に応じた環境整備（演習）
	4回	対象に応じたシーツ交換（演習）
	5回	対象に応じたシーツ交換（演習）
	6回	対象に応じたシーツ交換（演習）
	7回	体位
	8回	対象に応じた体位変換
	9回	移動・移送
	10回	対象に応じた移動・移送（演習）
	11回	対象に応じた移動・移送（演習）
	12回	休息・リラクゼーション
	13回	対象に応じた休息・苦痛の緩和・安楽確保の援助（演習） ポジショニング
	14回	対象に応じた休息・苦痛の緩和・安楽確保の援助（演習） 罨法
	15回	試験・まとめ
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ20巻 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版	
参考書		
評価方法		
その他		



## 専門分野

授業科目名	生活を整える看護技術（食事・排泄）	
科目目的・目標	人間にとっての食事と排泄の意義を理解し、対象に応じた援助技術を習得する。 1. 食事・排泄の生理的、心理的、社会的意義について理解できる 2. 食事・排泄に影響を及ぼす要因について理解し、アセスメントできる。 3. 食事・排泄行動の要因をアセスメントし、対象の状態に応じた援助ができる。	
授業概要	生理的欲求である食事や排泄は、人間にとって健康の維持・生命の維持・生活の質の向上のために必要不可欠である。本授業では、より良い食事、栄養摂取方法、排泄方法から、対象に応じた食事や排泄方法を考え、援助を実施するための知識・技術・態度を習得する。	
担当講師	片岡彩	
開講時期：単位	2年次前期	1単位20時間
授業計画	1回	食事援助の基礎知識
	2回	対象に応じた食事介助（演習）
	3回	対象に応じた食事介助（演習）
	4回	対象に応じた食事介助（演習）
	5回	排泄援助の基礎知識
	6回	対象に応じた排泄介助（演習）
	7回	対象に応じた排泄介助（演習）
	8回	対象に応じた排泄介助（演習）
	9回	対象に応じた排泄介助（演習）
	10回	試験・まとめ
	11回	
	12回	
	13回	
	14回	
	15回	
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ20巻 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版	
参考書		
評価方法		
その他		

## 専門分野

授業科目名	生活を整える看護技術（清潔・衣生活）	
科目目的・目標	人間にとっての清潔の意義を理解し、対象に応じた援助技術を習得する。 1. 清潔・衣生活の生理的、心理的、社会的意義について理解できる 2. 清潔・衣生活に影響を及ぼす要因について理解し、アセスメントできる。 3. 清潔・衣生活を阻害する要因をアセスメントし、対象の状態に応じた援助ができる。	
授業概要	人間にとっての「清潔」「衣生活」の意義を理解し、健康の充足や維持増進に必要な援助を学び、対象に応じた「清潔」や「衣生活」を援助するための知識・技術・態度を習得する。	
担当講師	中安ゆかり	
開講時期：単位	2年次前期	1単位30時間
授業計画	1回	清潔援助の基礎知識
	2回	清潔援助の方法（入浴、シャワー浴、清拭）
	3回	清潔援助の方法（洗髪、手浴、足浴、口腔ケア、整容）
	4回	対象に応じた清潔援助（演習）
	5回	対象に応じた清潔援助（演習）
	6回	対象に応じた清潔援助（演習）
	7回	対象に応じた清潔援助（演習）
	8回	対象に応じた清潔援助（演習）
	9回	対象に応じた清潔援助（演習）
	10回	対象に応じた清潔援助（演習）
	11回	対象に応じた清潔援助（演習）
	12回	衣生活の援助の基礎知識
	13回	対象に応じた衣生活の援助（演習）
	14回	対象に応じた衣生活の援助（演習）
	15回	終講試験・まとめ
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ20巻 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版	
参考書		
評価方法		
その他		

## 専門分野

授業科目名	看護技術総合演習	
科目目的・目標	事例に対して臨床判断能力を活用し、看護援助を行うことができる。 1. 既習の知識と技術を応用し、対象に応じた日常生活援助技術が提供できる。 2. 患者の立場に立ってケアを考えることができる。 3. 自己の看護技術の振り返りができる	
授業概要	看護技術評価（チェック）を実施する。 技術チェックで実施した援助を振り返り、さらに良い援助を行うためのリフレクティブサイクルに基づいた行動をとることを身に着ける。	
担当講師	黒川由美子	
開講時期：単位	2年次前期	1単位30時間
授業計画	1回	事例をアセスメントし、必要な看護援助を考える。
	2回	看護実践（演習）
	3回	看護実践（演習）
	4回	リフレクション
	5回	リフレクションに基づき再実施
	6回	事例をアセスメントし、必要な看護援助を考える。
	7回	看護実践（演習）
	8回	看護実践（演習）
	9回	リフレクション
	10回	リフレクションに基づき再実施
	11回	事例をアセスメントし、必要な看護援助を考える。
	12回	看護実践（演習）
	13回	看護実践（演習）
	14回	リフレクション
	15回	リフレクションに基づき再実施
使用テキスト	メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ22巻：臨床看護総論	
参考書		
評価方法		
その他		

## 専門分野

授業科目名	看護過程の基礎	
科目目的・目標	事例を通して、科学的思考、問題解決思考に基づき、対象に必要な援助を提供するための一連のプロセスについて学ぶ。 1. 看護を実践するための思考過程が理解できる。 2. 事例の看護上の問題を導き出す過程が理解できる。 3. 事例の看護上の問題解決に向けての効果的な看護計画が立案できる。	
授業概要	科学的思考に基づいて、対象に必要な援助を提供するための一連の思考プロセスを学ぶ。 また、自己のクリティカルシンキング能力を養う。	
担当講師	黒川由美子	
開講時期：単位	1 年次後期	1単位30時間
授業計画	1 回	看護過程とは・看護過程のステップ
	2 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	3 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	4 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	5 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	6 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	7 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	8 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	9 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	1 0 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	1 1 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	1 2 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	1 3 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	1 4 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	1 5 回	終講試験・まとめ
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ18巻 看護学概論 デジタルナーシンググラフィカ19巻 基礎看護技術 I	メディカ出版 メディカ出版
参考書		
評価方法		
その他		

## 専門分野

授業科目名	地域・在宅看護概論	
科目目的・目標	<p>地域包括ケアシステムの構築を推進するために、地域で暮らす人々のパートナーシップにに基づき、人々の健康と暮らしを継続的に支援する基礎的知識を身につける。</p> <p>1. 暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。</p> <p>2. 地域看護のあゆみと在宅看護の概念について理解できる。</p>	
授業概要		
担当講師	小坂宜靖	
開講時期：単位	1 年次後期	1単位・15時間
授業計画	1 回	地域・在宅看護の変遷
	2 回	地域・在宅看護論の対象
	3 回	地域の生活環境が健康に影響を与える影響
	4 回	地域と暮らしを支える看護（地域包括ケアシステム）
	5 回	看護が提供される多様な場（療養の場の意向に伴う看護）
	6 回	在宅療養を支える訪問看護
	7 回	地域・在宅看護の動向と今後の発展
	8 回	終講試験まとめ
	9 回	
	10 回	
	11 回	
	12 回	
	13 回	
	14 回	
	15 回	
	使用テキスト	デジタルナースンググラフィカ23巻：地域療養を支えるケア
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門分野

授業科目名	地域で療養生活を送る人の暮らしの場で行われる治療と看護	
科目目的・目標	地域で健康障害を持ちながら療養生活を送る人とその家族の看護について学ぶ 1. 医療処置を伴う在宅療養者とその家族への援助の基本を理解する。	
授業概要	医療処置を必要とする療養者やその家族が安心・安全に生活するためには看護師の知識や技術が必要とされる。そのため、ここでは在宅で行われる医療処置として多い在宅酸素療法（HOT）、在宅人工呼吸法（HMV）、在宅経管栄養法（HEN）、在宅中心静脈栄養法（HPN）、膀胱留置カテーテル、腹膜透析、ストマケア、褥瘡ケア、疼痛管理について学ぶ。また、事例をもとにグループワークを行い、療養者と家族に必要な援助を具体的に学ぶ。	
担当講師	高橋美奈子 古口綾奈	
開講時期：単位	2年次前期	1単位30時間
授業計画	1回	在宅における医療ケアの原理と原則
	2回	在宅酸素療法を用いる療養者と家族への援助
	3回	〃 演習
	4回	在宅で人工呼吸法を用いる療養者と家族への援助
	5回	在宅で経管栄養法を用いる療養者と家族への援助
	6回	在宅中心静脈栄養法を用いる療養者と家族への援助
	7回	在宅で膀胱留置カテーテルを用いる療養者と家族への援助・在宅での褥瘡管理
	8回	〃 演習
	9回	〃 演習
	10回	在宅でのストマ・CAPD管理
	11回	在宅での疼痛管理
	12回	在宅での自己管理を続けている糖尿病のある独居高齢者への援助(事例)
	13回	在宅での自己管理を続けている糖尿病のある独居高齢者への援助(事例)
	14回	在宅での自己管理を続けている糖尿病のある独居高齢者への援助(事例)
	15回	終講試験・まとめ
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ23巻：地域療養を支えるケア デジタルナーシンググラフィカ24巻：地域療養を支える技術	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門分野

授業科目名	地域で療養生活を送る人の暮らしを支える看護技術	
科目目的・目標	地域で療養生活を送る人とその家族の看護について学ぶ 1. 在宅療養者とその家族への日常生活援助の基本を理解する。	
授業概要	本単元では、在宅看護概論で学んだ基礎知識を基に、在宅で看護を展開するにあたって必要な知識・技術・態度を学び、対象とその家族への日常生活援助の基本を学ぶ。また、対象の生活に応じた日常生活援助や使用物品の創意工夫、経済性の考慮、対象の価値観や意思を尊重した対応を、演習を通して学ぶ。	
担当講師	折田誠子	
開講時期：単位	2年次後期	1単位・20時間
授業計画	1回	在宅で生活する高齢者と家族への看護技術（事例のアセスメント）
	2回	在宅で生活する高齢者と家族への看護技術（演習）
	3回	在宅で生活する高齢者と家族への看護技術（演習）
	4回	在宅で生活する慢性期の療養者と家族への看護技術（事例のアセスメント）
	5回	在宅で生活する慢性期の療養者と家族への看護技術（演習）
	6回	在宅で生活する慢性期の療養者と家族への看護技術（演習）
	7回	在宅で生活する回復期の療養者と家族への看護技術（事例のアセスメント）
	8回	在宅で生活する回復期の療養者と家族への看護技術（演習）
	9回	在宅で生活する回復期の療養者と家族への看護技術（演習）
	10回	試験・まとめ
	11回	
	12回	
	13回	
	14回	
	15回	
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ23巻：地域療養を支えるケア デジタルナーシンググラフィカ24巻：地域療養を支える技術	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門分野

授業科目名	地域で療養生活を送る対象への看護過程	
科目目的・目標	<p>事例を通して療養者や家族、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実践を学ぶ。</p> <p>1. 在宅における療養者とその家族の生活上の課題を検討することができる。</p> <p>2. 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援の方法を検討することができる。</p> <p>3. 療養者とその家族のが望む生活を実現するためのケアマネジメントを考えることができる。</p>	
授業概要	在宅療養者と家族（介護者）の事例を通して、在宅領域における看護過程を学ぶ。訪問看護過程では、看護が展開される場が生活の場であることを踏まえ、家族・社会資源・多職種連携の視点が必要であることを学ぶ。	
担当講師	和田佐知子	
開講時期：単位	2年次後期	1単位15時間
授業計画	1回	在宅看護過程の特徴・在宅療養者と家族の情報整理
	2回	訪問看護指示書・計画書・報告書から読み取れること
	3回	在宅行われているケアの必要性（家族・社会資源・多職種連携の視点）
	4回	情報のアセスメント
	5回	情報のアセスメント
	6回	情報のアセスメント
	7回	情報のアセスメント
	8回	終講試験
	9回	
	10回	
	11回	
	12回	
	13回	
	14回	
	15回	
使用テキスト	<p>デジタルナーシンググラフィカ23巻：地域療養を支えるケア</p> <p>デジタルナーシンググラフィカ24巻：地域療養を支える技術</p>	
参考書		
評価方法		
その他		



専門分野

成人看護学

授業科目名	クリティカルケア看護技術		
科目目的・目標	<p>目標： 急速に健康状態が変化する対象の合併症予防・早期発見するための必要な看護を思考する力と看護実践能力を習得するために、講義や演習を通して、目標1~4の理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>急速に状態が変化する対象の病態や治療とその影響について理解できる。</li> <li>基本的な救命救急処置の方法を理解し、模擬的に実践できる。</li> <li>合併症予防のために必要な看護を理解できる。</li> <li>日常生活の自立/自律に向けた回復過程を支援する方法を理解できる。</li> </ol>		
授業概要	急速に健康状態が変化する対象への専門的・集中的な看護技術について学ぶ。		
担当講師	吉田一哉		
開講時期：単位	2年次前期	1単位30時間	
授業計画	1回	クリティカルケアの基本概念	
	2回	目的・対象者・看護の役割	
	3回	クリティカルな患者および家族支援	
	4回	救命救急処置と看護	
	5回	演習：心肺蘇生法：AED 止血法	
	6回	演習：心肺蘇生法：AED 止血法	
	7回	集中ケアの看護技術	
	8回	集中治療室・集中的な治療を必要とする患者の看護	
	9回	クリティカルな状態にある患者のフィジカルアセスメント	
	10回	呼吸・循環・体液アセスメントと管理、トリアージ	
	11回	演習：トリアージ	
	12回	クリティカルな状態にある患者の看護技術	
	13回	外傷・熱傷・中毒・創傷治癒等の応急処置	
	14回	クリティカルな状態にある患者の看護技術	
	15回	外傷・熱傷・中毒・創傷治癒等の応急処置	
使用テキスト	メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ 健康危機状況/セルフケアの再獲得 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ 災害看護		
参考書	講義時に紹介		
評価方法	終講試験		
その他			

専門分野 成人看護学

授業科目名	セルフマネジメント看護技術		
科目目的・目標	<p>目的： 慢性的な健康課題をもつ対象に必要な看護を思考する力と看護実践能力を習得するために、講義を通して目標1～の理解を深める。</p> <p>目標： 1. 慢性的な健康課題を持ちながら、その人らしく過ごせるように、QOLの維持・向上に向けて支援する方法を考察できる。 2. 慢性的な健康課題の急性増悪の予防・早期発見・早期対応に向けて継続的な援助方法が理解できる。 3. 慢性的な健康課題に向き合う過程を支援する方法が理解できる。</p>		
授業概要	慢性的な健康課題をもつ対象のQOLの維持向上に向けて支援する方法を講義する。		
担当講師	真田春香 折田誠子		
開講時期：単位	2年次 後期	1単位 30時間	
授業計画	1回	慢性期看護とは	講義
	2回	慢性期にある対象の特徴、QOLを高める援助	講義
	3回	慢性期にある対象とその家族支援	講義
	4回	セルフマネジメント再獲得を目指す看護技術：呼吸器疾患 体位ドレナージ・呼吸リハビリテーション	講義
	5回	セルフマネジメント再獲得を目指す看護技術 代謝機能障害のある患者の看護 事例：糖尿病 食事療法に関連した患者支援 ストレスマネジメント	講義
	6回	セルフマネジメント再獲得を目指す看護技術 代謝機能障害のある患者の看護 事例：糖尿病 薬物療法・運動療法に関連した患者支援 血糖自己測定、フットケア	講義
	7回	セルフマネジメント再獲得を目指す看護技術 患者指導の作成	講義
	8回	演習：血糖自己測定・フットケア・体位ドレナージ 患者指導の実際	講義
	9回	セルフマネジメント再獲得を目指す看護技術：心疾患① 安静療法・食事療法・薬物療法・心臓リハビリテーション 急性増悪・日常生活管理	講義
	10回	セルフマネジメント再獲得を目指す看護技術：心疾患② 安静療法・食事療法・薬物療法・心臓リハビリテーション 急性増悪・日常生活管理	講義
	11回	セルフマネジメント再獲得を目指す看護技術 3事例程度（消化器疾患・脊損）を用いてGW 食事療法・薬物療法・内服療法・インターフェロン療法、褥瘡等 患者指導の作成	講義
	12回	セルフマネジメント再獲得を目指す看護技術 事例 消化器疾患 3事例程度（消化器疾患・脊損）を用いてGW 食事療法・薬物療法・内服療法・インターフェロン療法、褥瘡等 急性増悪・患者指導の発表	講義
	13回	がん看護 がんとともに生きる 患者体験記から患者の思いを考える。	講義
	14回	慢性疾患の急性増悪予防・早期発見・早期対応に向けての看護技術	講義
	15回	終講試験・まとめ	
使用テキスト	メディカ出版	デジタルナーシンググラフィカ	成人看護学概論
	メディカ出版	デジタルナーシンググラフィカ	セルフマネジメント
	メディカ出版	デジタルナーシンググラフィカ	疾患と看護 循環器
	メディカ出版	デジタルナーシンググラフィカ	疾患と看護 消化器
	メディカ出版	デジタルナーシンググラフィカ	疾患と看護 呼吸器
	メディカ出版	デジタルナーシンググラフィカ	疾患と看護 腎／泌尿器／内分泌・代謝
参考書	講義中に紹介		
評価方法	終講試験		
その他			

専門分野 成人看護学

授業科目名	セルフケア支援看護技術		
科目目的・目標	<p>目的：健康状態の治癒過程・回復過程にある対象に必要な看護を思考する力と看護実践能力を習得するために、講義を通して、目標1～2の理解を深める。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>回復期にある対象が、その対象らしい生活を再構築するためのプロセスを理解する。</li> <li>健康課題や障害によって変化したQOLを維持・向上するために必要なリハビリテーションや援助方法を理解できる。</li> </ol>		
授業概要	健康状態が急速に変化し、回復過程にある対象が、その人らしい生活を再構築するためのリハビリテーションや具体的な方法について講義する。		
担当講師	宮地麻美 森谷友美		
開講時期：単位	2年次前期	1単位30時間	
授業計画	1回	リハビリテーション看護における基本技術とは 自立の概念、ICF	講義
	2回	リハビリテーション期にある患者の特徴・生活機能 意志決定支援、障がい者の自立に向けた精神的支援	講義
	3回	リハビリテーション看護における生活支援のための看護技術 できるADL、しているADL、するADL、ADL評価法 チームアプローチ	講義
	4回	障がいのある対象の生活の再構築を目指す看護技術 摂食・嚥下障害のある患者の口腔からの食事援助 摂食・嚥下障害のある患者の口腔ケア	講義
	5回	障がいのある対象の生活の再構築を目指す看護技術 対象特性別リハビリテーション：乳房切除術後のリハビリテーション 血液透析患者へのシャント管理・	講義
	6回	障がいのある対象の生活の再構築を目指す看護技術 排泄機能障害のリハビリテーションと看護 事例：排泄機能障害（ストマ・自己導尿）	講義
	7回	演習：ストマ交換	演習
	8回	演習：ストマ交換	演習
	9回	障がいのある対象の生活の再構築を目指す看護技術 考える・注意を払う・話す・受け取る・覚える・覚えている・思い出す機能障害と看護技術 事例：脳血管疾患・高次脳機能障害	講義
	10回	障がいのある対象の生活の再構築を目指す看護過程 情報収集・アセスメント・関連図	講義
	11回	障がいのある対象の生活の再構築を目指す看護過程 情報収集・アセスメント・関連図・看護計画立案	講義
	12回	障がいのある対象の生活の再構築を目指す看護過程 情報収集・アセスメント・関連図・看護計画立案	講義
	13回	障がいのある対象の生活の再構築を目指す看護過程 看護計画実施・評価 日常生活援助・症状の改善・機能の向上を目指す援助 食事： } 考える・注意を払う機能の障害により生じる生活支援 排泄： } 清潔： } 更衣： } 移動：片麻痺患者の歩行自立に向けた支援	
	14回	障がいのある対象の生活の再構築を目指す看護過程 看護計画実施・評価・日常生活援助・症状の改善・機能の向上を目指す援助	
	15回	終講試験	
使用テキスト	<p>メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ29巻 リハビリテーション看護</p> <p>メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ26巻 健康危機状況/セルフケアの再獲得</p> <p>メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ EX3巻 疾患と看護 消化器</p> <p>メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ EX8巻 疾患と看護 腎/泌尿器/内分泌・代謝</p> <p>メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ EX5巻 疾患と看護 脳・神経</p>		
参考書	講義にて紹介		
評価方法	課題（20％） 終講試験（80％）		
その他			

## 専門分野

授業科目名	高齢者の生活を支える看護技術		
科目目的・目標	<p>老年期の特徴とその生活について理解し、高齢者の生命（命・いのち）と健康な生活の維持のための看護実践について学ぶ。</p> <p>1. 高齢者に特徴的な疾患や症状をふまえ、生活機能を整えるための援助を実践する能力を身に付けることができる。</p> <p>2. 高齢者の持てる力を活かした自立（自律）を目指し生活の質を維持する援助の必要性が理解できる。</p>		
授業概要	様々な健康課題のある高齢者の、生活を支える看護について理解を深め、高齢者の生活に着目し生活の質の維持、拡充するための看護を実践する能力を身に付ける		
担当講師	山田良子		
開講時期：単位	2年次後期	1単位30時間	
授業計画	1回	高齢者の歩行・移動を支える看護技術（講義・演習）	
	2回	高齢者の歩行・移動を支える看護技術（演習）	
	3回	高齢者の満足な食生活を支える看護技術（講義・演習）	
	4回	高齢者の満足な食生活を支える看護技術（演習）	
	5回	高齢者の快適な排泄を支える技術（講義・演習）	
	6回	高齢者の快適な排泄を支える看護技術（演習）	
	7回	高齢者の清潔・衣生活を支える看護技術（講義・演習）	
	8回	高齢者の清潔・衣生活を支える看護技術（演習）	
	9回	高齢者の活動と休息を支える看護技術（講義・演習）	
	10回	高齢者の活動と休息を支える看護技術（演習）	
	11回	高齢者のコミュニケーションを支える看護技術（講義・演習）	
	12回	高齢者のセクシュアリティを支える看護技術（講義・演習）	
	13回	高齢者の介護予防・社会参加を促進する看護技術 アクティビティケア	
	14回	高齢者の介護予防・社会参加を促進する看護技術 アクティビティケア	
	15回	終講試験・まとめ	
使用テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ31巻	老年看護学①	高齢者の健康と障害
	デジタルナーシング・グラフィカ32巻	老年看護学②	高齢者の看護の実践
参考書			
評価方法	筆記試験	80点	提出物・レポート 20点
その他			

## 専門分野

授業科目名	高齢者への看護過程	
科目目的・目標	<p>高齢者の特徴をふまえ、生活機能から見た看護展開について事例を通して学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者のライフヒストリーや持てる力について情報収集ができる。</li> <li>2. 加齢や疾患による機能低下と生活への影響に着目してアセスメントができる。</li> <li>3. 疾患や加齢変化により起こりうる合併症について予測、予防の視点でアセスメントができる。</li> <li>4. 入院前の生活を知り、退院後の生活を見据えた看護を考えることができる。</li> </ol>	
授業概要	<p>疾患や障害により入院した高齢者の生活への影響を考えること、高齢者の疾患の特徴をふまえて看護を実践するための考え方について学ぶ。疾患や症状だけでなく、高齢者の生活史や、持てる力をみる必要性について学ぶ。</p>	
担当講師	山田良子	
開講時期：単位	2年次後期	1単位15時間
授業計画	1回	生活行動モデル 事例提示
	2回	情報の分類と問題点
	3回	アセスメント
	4回	アセスメント
	5回	関連図 看護計画立案
	6回	看護計画発表
	7回	看護計画 実施 評価
	8回	終講試験
	9回	
	10回	
	11回	
	12回	
	13回	
	14回	
	15回	
使用テキスト	<p>デジタルナーシンググラフィカ23巻：地域療養を支えるケア デジタルナーシンググラフィカ24巻：地域療養を支える技術</p>	
参考書		
評価方法		
その他		

分野 精神看護学

授業科目名	精神に障がいをもつ対象への看護技術	
科目目的	こころの仕組み・機能や、精神科医療の歴史、精神に影響を与える社会の事象を理解し、精神看護を考えるための基礎的知識を身につける。また、精神領域における諸問題や、看護師自身の健康についても焦点をあて、精神に障がいをもつ対象を看護する知識・技術を学ぶ。	
科目目標	1. こころの健康に関連する知識をもとに対象をより理解する。 2. 対象と向き合う一人の人間としての自己を意識しより良い関係作りを考えることが出来る。 3. こころの健康に影響を及ぼす問題を理解し対象に合わせた支援を考える。 4. 精神障がい生活に与える影響について考え、その支援方法を理解する。	
担当講師	大阪則子 當房正嗣 大橋恵美子	
開講時期：単位	年次・期	1年後期 1単位・30時間
授業計画	1回	精神に障がいをもつ対象を理解するために環境や背景を知る。①
	2回	精神に障がいをもつ対象を理解するために環境や背景を知る。②
	3回	精神に障がいをもつ対象を理解するために環境や背景を知る。③
	4回	対象を理解し援助関係を形成するための看護技術①
	5回	対象を理解し援助関係を形成するための看護技術②
	6回	行動制限を受けている対象への看護技術
	7回	対象の病識や障がいの受容を支援する看護技術
	8回	長期入院をしている対象を支援する看護技術
	9回	治療を受けることを支える看護技術
	10回	セルフケアへの援助をする看護技術①食事、排泄
	11回	セルフケアの援助をする看護技術②整容、清潔
	12回	セルフケアの援助方法③活動と休息 対人関係
	13回	セルフケアの援助方法④コーピングと治療継続のための看護技術
	14回	行動化への対応をする精神看護技術
	15回	終講試験・まとめ
使用テキスト	ナーシンググラフィカ39巻 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 ナーシンググラフィカ40巻 精神看護学② 精神障害と看護の実践	
参考書	講義内で紹介する	
評価方法		
その他		

## 分野 精神看護学

授業科目名	精神に障がいをもつ対象への看護過程		
科目目的	精神に障がいをもつ対象について、健康に影響を及ぼす要因を理解し、理論を用いながら支援する方法を学ぶ。		
科目目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神に障がいをもつ対象への理解を深める。</li> <li>・対象との関係性を考え自己の看護の姿勢を考える。</li> <li>・精神疾患と看護のアプローチの特徴を理解する。</li> <li>・オレムアンダーウッドモデルについて学び援助に取り入れる方法を学ぶ。</li> </ul>		
担当講師	大橋恵美子		
開講時期：単位	2年次・後期	1単位・時間	
授業計画	1回	精神科看護における援助関係と他職種連携	
	2回	精神に障がいを持つ患者の看護過程①事例紹介	
	3回	精神に障害を持つ患者の看護過程②情報の整理とセルフケア要件	
	4回	精神に障がいを持つ患者の看護過程③情報の整理とセルフケア要件	
	5回	精神に障がいを持つ患者の看護過程④関連図と看護問題	
	6回	精神に障がいを持つ患者の看護過程⑤看護計画立案・資料作成	
	7回	精神に障がいを持つ患者の看護過程⑥実施と評価を考える	
	8回	終講試験・まとめ	
使用テキスト	ナーシンググラフィカ39巻 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 ナーシンググラフィカ40巻 精神看護学② 精神障害と看護の実践		
参考書	講義内で紹介する。		
評価方法			
その他			

## 専門分野

授業科目名	性と生殖の看護技術	
科目目的	性と生殖の機能に焦点を当て、性と生殖の健康状態を過ごすための日常生活行動を理解する。妊娠分娩産褥期の女性と胎児新生児が順調に経過するための日常生活の支援を学習する。	
授業概要	性と生殖機能を理解し、日常生活行動に適応したセルフケア行動を実践する。周産期の母子への日常生活の支援を実践する。	
科目目標		
担当講師	城所木綿子 伊藤和世	
開講時期：単位	2年次前期	1単位30時間
授業計画	1回	オリエンテーション、月経時のセルフケア、マンスリービクス 演習
	2回	妊孕性教育と家族計画、受胎調節法 演習
	3回	性感染予防教育と緊急避妊法 演習
	4回	不妊症の理解と支援 講義
	5回	妊娠初期の過ごし方、不快症状の緩和と対処 演習
	6回	妊娠中期の過ごし方、出産準備の実際 演習
	7回	妊娠期の食事療法と健康教育の実際 演習
	8回	妊娠期の食事療法と健康教育の実際 発表
	9回	分娩期の過ごし方、産痛緩和の実際 演習
	10回	産褥復古を促すセルフケア 演習
	11回	母乳育児を促すセルフケア 演習
	12回	胎外生活の適応を促す新生児の日常ケア 演習
	13回	早期新生児の適応・成長・発育を評価するケア 演習
	14回	産後1か月・生後1か月までのセルフケア支援 GW
	15回	終講試験・まとめ
使用テキスト	ナーシンググラフィカ36巻 母性看護学概論・リプロダクティブヘルスと看護 ナーシンググラフィカ37巻 母性看護の実際 ナーシンググラフィカ38巻 母性看護技術	
参考書	デジタル教科書；メディカ出版「ナーシンググラフィカシリーズ」 ④健康の回復と看護「性・生殖機能障害」 ⑤疾患と看護「女性生殖器」	
評価方法	筆記試験 点 課題レポート 点	
その他		



## 専門分野

授業科目名	周産期の看護過程		
科目目的	マタニティサイクルにある母子及び家族の特徴と健康問題を査定し、妊婦・産婦・褥婦及び新生児と家族への看護展開について理解できる。		
授業概要	妊婦体験を通して妊娠による心身の変化と日常生活に及ぼす影響、看護者としてのケアや支援を考えることが出来る。紙上事例を通じて、計画立案までの看護過程の展開ができる。技術演習により、基本的な看護技術を実践し、方法について説明できる。		
科目目標			
担当講師	城所木綿子		
開講時期：単位	2年次後期	1単位15時間	
授業計画	1回	オリエンテーション、紙上事例の母子の基礎情報	演習
	2回	紙上事例の母子のマタニティ診断	演習
	3回	紙上事例の母子の看護目標、看護計画	演習
	4回	紙上事例の妊娠期のヘルスアセスメント演習	演習
	5回	紙上事例の産褥期のヘルスアセスメント演習	演習
	6回	紙上事例の新生児のヘルスアセスメント演習	演習
	7回	紙上事例の産後2週間の看護演習	GW
	8回	終講試験・まとめ	
使用テキスト	ナーシンググラフィカ36巻 母性看護学概論・リプロダクティブヘルスと看護 ナーシンググラフィカ37巻 母性看護の実践 ナーシンググラフィカ38巻 母性看護技術		
参考書	デジタル教科書；メディカ出版「ナーシンググラフィカシリーズ」 ④健康の回復と看護「性・生殖機能障害」 ⑤疾患と看護「女性生殖器」		
評価方法	紙上事例	点	
	課題レポート	点	
	態度出欠席	点	
その他			

専門分野 小児看護学

授業科目名	小児看護技術		
科目目的・目標	<p>小児を「権利を持つ存在」として捉え、その権利が奪われることなく安全・安心な看護技術を実践するために必要な基礎知識を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康障害をもつ小児に必要な基礎看護技術がわかる。</li> <li>2. 小児の対象特性に応じた看護技術がわかる。</li> <li>3. プレパレーションの目的・目標を理解し、小児の対象特性に応じた実施ができる。</li> </ol>		
授業概要	健康レベルや生活背景に応じた日常生活の過ごし方、安全で安楽なケアを提供していくために科学的根拠を学び小児看護実践能力を育成する基本技術を学習する。		
担当講師	大出幸子他		
開講時期:単位	2年次後期		1単位30時間
授業計画	1回	小児看護技術とは。援助関係を形成する技術	講義
	2回	小児基本看護技術:環境を調整する技術	講義・演習
	3回	小児基本看護技術:食事・排泄援助技術	講義
	4回	小児基本看護技術:環境・食事・排泄	演習
	5回	小児基本看護技術:清潔・衣生活の援助技術	講義
	6回	小児基本看護技術:清潔・衣生活の援助技術	演習
	7回	小児基本看護技術:呼吸・循環を整える看護技術	講義
	8回	小児基本看護技術:与薬の技術	講義・演習
	9回	小児基本看護技術:プレパレーションとは。 発達段階別プレパレーション	講義・演習
	10回	小児基本看護技術:プレパレーションツールの作成	演習
	11回	小児基本看護技術:プレパレーションの実際	発表
	12回	先天性疾患、障がいをもつ小児と家族への看護	講義・演習
	13回	慢性疾患を持つ小児と家族への看護	講義・演習
	14回	急性疾患にある小児と家族への看護	講義・演習
	15回	終講試験・まとめ	
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ34巻 小児看護学② 小児看護技術 デジタルナーシンググラフィカ33巻 小児の発達と看護 デジタルナーシンググラフィカ35巻 小児の疾患と看護		
参考書	小児看護技術 南江堂		
評価方法	終講試験・レポート課題		
その他			

専門分野 小児看護学

授業科目名	健康に障がいのある子どもと家族の看護過程	
科目目的・目標	目的：健康障害や健康問題を持つ子どもとその家族を理解し、子どもの成長発達段階や健康状態、子どもと家族が置かれている様々な状況に合わせた援助を実践するために、療養行動やセルフケア能力を促進する援助について学習する。 目標：病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護を理解することができる。	
授業概要	健康を障害されることが、子ども・家族にとってどのような意味があるのか、子どもと家族の体験について学び、子どもと家族を一つの単位として捉え、健康レベルや生活背景に応じた日常生活の過ごし方、援助方法について看護過程を用いて理解する。	
担当講師	大出幸子	
開講時期：単位	2年次後期	1単位15時間
授業計画	1回	健康障害のある子どもと家族の看護過程 事例説明、情報整理
	2回	健康障害のある子どもと家族の看護過程 アセスメント
	3回	健康障害のある子どもと家族の看護過程 アセスメントの確認、関連図作成
	4回	健康障害のある子どもと家族の看護過程 問題点抽出
	5回	健康障害のある子どもと家族の看護過程 短期目標、長期目標、具体策立案
	6回	健康障害のある子どもと家族の看護過程 看護計画発表
	7回	健康障害のある子どもと家族の看護過程 実施・結果・評価
	8回	終講試験
	9回	
	10回	
	11回	
	12回	
	13回	
	14回	
	15回	
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ34巻 小児看護学② 小児看護技術 デジタルナーシンググラフィカ33巻 小児の発達と看護 デジタルナーシンググラフィカ35巻 小児の疾患と看護	
参考書	小児看護技術 南江堂	
評価方法	課題提出・単位認定試験	
その他		

## 専門分野

授業科目名	薬物療法と看護	
科目目的・目標	対象特性に応じた薬物療法の基礎的知識、看護の役割を学ぶ。 1. 健康状態・対象特性に応じた服薬における看護の基礎的な知識・技術が理解できる。。	
科目目標		
担当講師	橋本寛子	
開講時期：単位	2年次前期	1単位30時間
授業計画	1回	健康状態・対象特性に応じた薬物療法の基礎知識
	2回	薬物療法を受ける成人の対象のアセスメント
	3回	健康障害のある成人の対象の薬物療法と看護
	4回	セルフマネジメントに向けた成人慢性期患者の服薬指導
	5回	緩和ケアを必要とする終末期患者の薬物療法と看護
	6回	妊産婦の薬物療法と看護
	7回	授乳婦・新生児の薬物療法と看護
	8回	小児の薬物療法と看護
	9回	小児の薬物療法と看護
	10回	高齢者の薬物療法と看護
	11回	高齢者の薬物療法と看護
	12回	精神疾患、障害がある対象の薬物療法と看護
	13回	精神疾患、障害がある対象の薬物療法と看護
	14回	在宅療養者の薬物療法と看護
	15回	終講試験・まとめ
使用テキスト	メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ4巻 臨床薬理学 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ30巻 緩和ケア メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ13巻 疾病と治療 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ34巻 小児看護技術 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ32巻 高齢者看護の実践 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ37巻 母性看護の実践 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ40巻 精神障害と看護の実践 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ23巻 地域療養を支えるケア	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門分野

授業科目名	ケアリングコミュニケーション																															
科目目的・目標	ケアリングに基づき、対象特性に応じたコミュニケーション技法を学び看護に活用する。 1. ケアリングコミュニケーションの概要がわかる。 2. コミュニケーション障害のある対象の状態を把握しケアリングコミュニケーションを活用できる。																															
授業概要																																
担当講師	大橋恵美子																															
開講時期：単位	2年次前期	1単位30時間																														
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1回</td> <td>ケアリングコミュニケーションとは</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>あらゆる健康段階にある成人期の患者・家族へのケアリングコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>認知症患者へのケアリングコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>老年期の健康障害をもつ患者へのケアリングコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>あらゆる健康段階にある小児・家族へのケアリングコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>妊娠分娩産褥期における対象へのケアリングコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>9回</td> <td>精神に障害をもつ対象へのケアリングコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>10回</td> <td>在宅療養者と家族へのケアリングコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>11回</td> <td>事例を通して、ケアリングコミュニケーションを実際に実施してみる</td> </tr> <tr> <td>12回</td> <td>事例を通して、ケアリングコミュニケーションを実際に実施してみる</td> </tr> <tr> <td>13回</td> <td>事例を通して、ケアリングコミュニケーションを実際に実施してみる</td> </tr> <tr> <td>14回</td> <td>事例を通して、ケアリングコミュニケーションを実際に実施してみる</td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>終講試験・まとめ</td> </tr> </table>		1回	ケアリングコミュニケーションとは	2回	あらゆる健康段階にある成人期の患者・家族へのケアリングコミュニケーション	3回	〃	4回	認知症患者へのケアリングコミュニケーション	5回	〃	6回	老年期の健康障害をもつ患者へのケアリングコミュニケーション	7回	あらゆる健康段階にある小児・家族へのケアリングコミュニケーション	8回	妊娠分娩産褥期における対象へのケアリングコミュニケーション	9回	精神に障害をもつ対象へのケアリングコミュニケーション	10回	在宅療養者と家族へのケアリングコミュニケーション	11回	事例を通して、ケアリングコミュニケーションを実際に実施してみる	12回	事例を通して、ケアリングコミュニケーションを実際に実施してみる	13回	事例を通して、ケアリングコミュニケーションを実際に実施してみる	14回	事例を通して、ケアリングコミュニケーションを実際に実施してみる	15回	終講試験・まとめ
1回	ケアリングコミュニケーションとは																															
2回	あらゆる健康段階にある成人期の患者・家族へのケアリングコミュニケーション																															
3回	〃																															
4回	認知症患者へのケアリングコミュニケーション																															
5回	〃																															
6回	老年期の健康障害をもつ患者へのケアリングコミュニケーション																															
7回	あらゆる健康段階にある小児・家族へのケアリングコミュニケーション																															
8回	妊娠分娩産褥期における対象へのケアリングコミュニケーション																															
9回	精神に障害をもつ対象へのケアリングコミュニケーション																															
10回	在宅療養者と家族へのケアリングコミュニケーション																															
11回	事例を通して、ケアリングコミュニケーションを実際に実施してみる																															
12回	事例を通して、ケアリングコミュニケーションを実際に実施してみる																															
13回	事例を通して、ケアリングコミュニケーションを実際に実施してみる																															
14回	事例を通して、ケアリングコミュニケーションを実際に実施してみる																															
15回	終講試験・まとめ																															
使用テキスト	メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ18巻 看護学概論 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ32巻 高齢者看護の実践 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ23巻 地域療養を支えるケア																															
参考書																																
評価方法																																
その他																																

## 専門分野

授業科目名	中範囲理論の活用	
科目目的・目標	<p>中範囲理論を活用することで、健康問題に取り組む人々の心理や行動、患者・家族が体験する世界を理解したり、看護の必要性をアセスメントし適切な健康行動を促進する。</p> <p>1. 中範囲理論を看護アセスメントに活かし、多様な背景をもつ患者に対して根拠のある看護を考えることができる。</p>	
授業概要		
担当講師	中安ゆかり 大出幸子 山田良子 城所木綿子 森谷友美 大橋恵美子	
開講時期：単位	2年次前期	1単位30時間
授業計画	1回	中範囲理論とは
	2回	成人期にある対象への中範囲理論の活用：危機理論 病みの軌跡 等
	3回	成人期にある対象への中範囲理論の活用：行動変容等
	4回	成人期にある対象への中範囲理論の活用：成人学習者 アンドラゴジー 等
	5回	成人期にある対象への中範囲理論の活用：死の受容過程 等
	6回	老年期にある対象への中範囲の活用
	7回	老年期にある対象への中範囲の活用
	8回	小児とその家族への中範囲理論の活用
	9回	小児とその家族への中範囲理論の活用
	10回	妊娠・分娩・産褥期および新生児期にある対象への中範囲理論の活用
	11回	妊娠・分娩・産褥期および新生児期にある対象への中範囲理論の活用
	12回	精神に障害をもつ対象への中範囲理論の活用
	13回	精神に障害をもつ対象への中範囲理論の活用
	14回	在宅療養者とその家族への中範囲理論の活用
	15回	終講試験・まとめ
使用テキスト	メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ25巻 成人看護学概論	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門分野

授業科目名	周手術期と看護	
科目目的・目標	<p>対象の特性をふまえ、急性期やクリティカルな状態、周手術期における援助や治療・処置に応じた看護について学ぶ。また急性期・周手術期の看護場面で必要とされる援助技術についても演習を通して学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急性期やクリティカルな状態にある対象の生命の維持や心身の苦痛緩和に対する看護が理解できる。</li> <li>2. 周手術期における看護について理解できる。</li> <li>3. 急性期・周手術期場面で必要とされる援助技術について理解できる。</li> </ol>	
授業概要		
担当講師	南原琴美	
開講時期：単位	2年次後期	1単位30時間
授業計画	1回	クリティカルな状態と患者・家族の看護
	2回	周手術期概論
	3回	術前看護の特徴と理解
	4回	術中看護の特徴と理解
	5回	術後看護の特徴と理解
	6回	術後看護の特徴と理解
	7回	術後看護の特徴と理解
	8回	術後看護の特徴と理解
	9回	術後看護の特徴と理解（演習）
	10回	術後看護の特徴と理解（演習）
	11回	手術をうける高齢者の看護
	12回	手術をうける高齢者の看護
	13回	手術をうける小児と家族への看護
	14回	帝王切開術をうける産婦の看護
	15回	終講試験・まとめ
使用テキスト	<p>メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ28巻 周手術期看護          メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ25巻 成人看護学概論          メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ26巻 健康危機状況／セルフケアの再獲得          メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ22巻 臨床看護総論          メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ32巻 高齢者看護の実践          メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ33巻 小児の発達と看護          メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ37巻 母性看護の実践</p>	
参考書		
評価方法	終講試験・レポート	
その他		

## 専門分野

授業科目名	エンドオブライフケア																															
科目目的・目標	<p>死を迎えつつある人に必要な看護について学習する。緩和ケアおよび臨死期の看護，悲嘆とそのプロセスに応じた援助，ならびにグリーフケアについて学習し、自己の死生観を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ターミナルケアの概念、歴史的背景と現状について述べるができる。</li> <li>2 ターミナル期にある対象のトータルペインと緩和ケアの基本を説明できる。</li> <li>3 看取りにおける看護職の役割を説明できる。</li> </ol>																															
授業概要																																
担当講師	湯之原絢 藤原保子 大出幸子 山田良子 森谷友美 伊藤和世 和田佐知子																															
開講時期：単位	2年次後期	1単位30時間																														
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1回</td> <td>緩和ケアとは ターミナルケアの歴史と現状</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>死にゆく人々と家族を支える援助 1) 身体的苦痛の緩和</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>スピリチュアルケア</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>家族が体験する苦痛とそのケア</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>死をめぐる倫理的な課題と臨終期のケア</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>成人期にある対象と家族へのエンドオブライフケア</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>死をめぐる倫理的な課題と臨死期のケア</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>高齢者と家族へのエンドオブライフケア</td> </tr> <tr> <td>9回</td> <td>小児と家族へのエンドオブライフケア</td> </tr> <tr> <td>10回</td> <td>周産期におけるエンドオブライフケア</td> </tr> <tr> <td>11回</td> <td>リエゾン精神看護</td> </tr> <tr> <td>12回</td> <td>グリーフケア</td> </tr> <tr> <td>13回</td> <td>在宅療養者と家族へのエンドオブライフケア</td> </tr> <tr> <td>14回</td> <td>緩和ケアにおけるチーム医療の実際</td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>終講試験・まとめ</td> </tr> </table>		1回	緩和ケアとは ターミナルケアの歴史と現状	2回	死にゆく人々と家族を支える援助 1) 身体的苦痛の緩和	3回	スピリチュアルケア	4回	家族が体験する苦痛とそのケア	5回	死をめぐる倫理的な課題と臨終期のケア	6回	成人期にある対象と家族へのエンドオブライフケア	7回	死をめぐる倫理的な課題と臨死期のケア	8回	高齢者と家族へのエンドオブライフケア	9回	小児と家族へのエンドオブライフケア	10回	周産期におけるエンドオブライフケア	11回	リエゾン精神看護	12回	グリーフケア	13回	在宅療養者と家族へのエンドオブライフケア	14回	緩和ケアにおけるチーム医療の実際	15回	終講試験・まとめ
1回	緩和ケアとは ターミナルケアの歴史と現状																															
2回	死にゆく人々と家族を支える援助 1) 身体的苦痛の緩和																															
3回	スピリチュアルケア																															
4回	家族が体験する苦痛とそのケア																															
5回	死をめぐる倫理的な課題と臨終期のケア																															
6回	成人期にある対象と家族へのエンドオブライフケア																															
7回	死をめぐる倫理的な課題と臨死期のケア																															
8回	高齢者と家族へのエンドオブライフケア																															
9回	小児と家族へのエンドオブライフケア																															
10回	周産期におけるエンドオブライフケア																															
11回	リエゾン精神看護																															
12回	グリーフケア																															
13回	在宅療養者と家族へのエンドオブライフケア																															
14回	緩和ケアにおけるチーム医療の実際																															
15回	終講試験・まとめ																															
使用テキスト	<p>デジタルナーシンググラフィカ30巻 緩和ケア          デジタルナーシンググラフィカ25巻 成人看護学概論          デジタルナーシンググラフィカ37巻 母性看護の実際          デジタルナーシンググラフィカ33巻 小児発達と看護          デジタルナーシンググラフィカ32巻 高齢者看護の実際</p>																															
参考書																																
評価方法	終講試験																															
その他																																



## 専門分野

授業科目名	症状マネジメント論	
科目目的・目標	看護実践におけるいくつかの症状について、症状のメカニズムと出現形態、対象の症状の体験を理解し、症状マネジメントの看護を学ぶ。 1. 対象の特性に応じた症状がわかる。 2. 対象の症状がマネジメントできる。	
授業概要		
担当講師	大出幸子 山田良子 城所木綿子 森谷友美 古口綾奈 大橋恵美子	
開講時期：単位	2年次後期	1単位30時間
授業計画	1回	症状マネジメントの基礎
	2回	成人期における糖尿病患者の症状マネジメント
	3回	成人期における脳血管疾患患者の症状マネジメント
	4回	成人期における心疾患患者の症状マネジメント
	5回	成人期における呼吸器疾患患者の症状マネジメント
	6回	成人期における腎疾患患者の症状マネジメント
	7回	小児の症状マネジメント
	8回	高齢者の症状マネジメント
	9回	高齢者の症状マネジメント
	10回	妊娠・分娩・産褥および新生児の症状マネジメント
	11回	妊娠・分娩・産褥および新生児の症状マネジメント
	12回	精神に障害をもつ対象の症状マネジメント
	13回	精神に障害をもつ対象の症状マネジメント
	14回	在宅療養者の症状マネジメント
	15回	終講試験・まとめ
使用テキスト	メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ EX1巻 疾患と看護 呼吸器 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ EX8巻 疾患と看護 腎・泌尿器・内分泌/代謝 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ EX2巻 疾患と看護 循環器 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ EX5巻 疾患と看護 脳・神経 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ34巻 小児看護技術 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ32巻 高齢者看護の実践 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ40巻 精神障害と看護の実践 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ23巻 地域在宅を支えるケア	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門分野

授業科目名	ヘルスアセスメント	
科目目的・目標	解剖生理、病態生理、主な疾患の基本的知識に基づき、看護に必要となる対象者の身体的な情報について、五感を駆使して収集する方法を系統別に学び、アセスメント能力を身に付ける。 1. ヘルスアセスメントの意義及び基本技術について説明できる。 2. 対象特性に応じたヘルスアセスメントの観察視点や根拠について説明できる。 3. 対象特性に応じたフィジカルイグザミネーションを正しく実施することができる。	
授業概要		
担当講師	森谷友美	
開講時期：単位	1 年次後期	1 単位30時間
授業計画	1 回	ヘルスアセスメントの基礎
	2 回	成人期における循環器のヘルスアセスメント
	3 回	成人期における呼吸器のヘルスアセスメント
	4 回	成人期における運動器・感覚器のヘルスアセスメント
	5 回	成人期における消化器のヘルスアセスメント
	6 回	成人期における腎・泌尿器のヘルスアセスメント
	7 回	老年期におけるヘルスアセスメント
	8 回	小児期におけるヘルスアセスメント
	9 回	妊娠・分娩・産褥及び新生児期におけるヘルスアセスメント
	1 0 回	精神に障害をもつ対象のヘルスアセスメント
	1 1 回	在宅療養者のヘルスアセスメント
	1 2 回	ヘルスアセスメント演習
	1 3 回	ヘルスアセスメント演習
	1 4 回	ヘルスアセスメント演習
	1 5 回	終講試験・まとめ
使用テキスト	デジタル・ナーシンググラフィカ19巻 基礎看護技術 I デジタル・ナーシンググラフィカ EX疾患と看護 シリーズ デジタル・ナーシンググラフィカ22巻 臨床看護総論	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門分野

授業科目名	医療安全	
科目目的・目標	<p>看護における安全管理について理解し、質の高い看護実践のための基礎的知識を身につける。また、チームで働く医療現場に必要な判断力・行動力を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 対象特性に応じた事故発生のメカニズムを理解し、事故防止対策のポイントを説明できる。</li> <li>2 対象特性に応じた危険について、必要な知識・技術を理解することができる。</li> <li>3 看護業務に潜む危険を予知し、回避行動をとることができる。</li> <li>4 医療チームとして必要なスキルを理解し使うことができる</li> </ol>	
授業概要		
担当講師	浅木貴子	
開講時期：単位	1 年次後期	1単位15時間
授業計画	1 回	医療安全を学ぶことの大切さ・安全考え方（医療事故と組織）
	2 回	事故防止の考え方（総論・各論）
	3 回	診療補助における事故防止 1・2（対象領域別にみる安全対策）
	4 回	療養上の世話の事故防止（対象領域別にみる安全対策）
	5 回	医療安全とコミュニケーション（チーム医療含む）
	6 回	看護師の労働安全衛生上の事故防止（医療安全・感染）
	7 回	在宅看護における医療安全対策
	8 回	終講試験
	9 回	
	10 回	
	11 回	
	12 回	
	13 回	
	14 回	
	15 回	
使用テキスト	メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ42巻 医療安全 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ18巻 看護学概論 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ34巻 小児看護着技術 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ39巻 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ23巻 地域医療を支えるケア	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門分野

授業科目名	継続看護	
科目目的・目標	対象特性に応じた継続看護における看護師の役割と責任を学ぶ。 1. QOLの向上を目指した生活を送るために必要な看護援助とケアの継続性が理解できる。	
授業概要		
担当講師	折田誠子	
開講時期：単位	2年次後期	1単位15時間
授業計画	1回	継続看護とは
	2回	成人期の対象への継続看護（退院調整・退院支援）
	3回	高齢者への継続看護（退院調整・退院支援）
	4回	小児への継続看護（退院調整・退院支援）
	5回	母子への継続看護（退院調整・退院支援）
	6回	精神に障害をもつ対象への継続看護（リハビリと予防行動）
	7回	在宅療養者への継続看護
	8回	終講試験
	9回	
	10回	
	11回	
	12回	
	13回	
	14回	
	15回	
使用テキスト	デジタル・ナーシンググラフィカ18巻 看護学概論 デジタル・ナーシンググラフィカ26巻 健康危機状況／セルフケアの再獲得 デジタル・ナーシンググラフィカ27巻 セルフマネジメント デジタル・ナーシンググラフィカ31巻 高齢者の健康と障害 デジタル・ナーシンググラフィカ40巻 精神障害と看護の実践 デジタル・ナーシンググラフィカ23巻 地域療養を支えるケア	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門分野

授業科目名	災害看護	
科目目的・目標	<p>災害が人々の心身に与える影響や生活を理解するとともに、脆弱性を有し災害時に傷つきやすい対象（小児・妊婦褥婦・在宅療養者など）がもつ健康ニーズや看護介入（ケア）について学ぶ。</p> <p>1. 災害時要配慮者が持つ健康ニーズと看護ケアについて説明できる。</p> <p>2. 災害サイクル各期に特徴的な健康課題と看護活動・介入について説明できる。</p> <p>3. 災害看護の基礎知識と看護について理解し、看護職の役割について考えることができる。</p>	
授業概要		
担当講師		
開講時期：単位	3年次後期	1単位15時間
授業計画	1回	災害看護とは
	2回	災害時における継続的な治療が必要な成人期の対象への支援と看護
	3回	災害時における高齢者に必要な支援と看護
	4回	災害時における乳幼児およびこどもに必要な支援と看護
	5回	災害時における妊産婦に必要な支援と看護
	6回	災害時における精神に障害をもつ対象に必要な支援と看護
	7回	災害時における在宅療養者に必要な支援と看護
	8回	終講試験
	9回	
	10回	
	11回	
	12回	
	13回	
	14回	
	15回	
使用テキスト	<p>メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ18巻 看護学概論</p> <p>メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ43巻 災害看護</p>	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門分野

授業科目名	対象特性別看護に関わる法律	
科目目的・目標	<p>保健・医療・福祉制度をめぐる法と政策について、歴史的背景を踏まえて現在の問題と将来の課題について学ぶ。また、対象特性に応じた法律の活用法について学ぶ。</p> <p>1. 法律の解釈と対象特性に応じた活用法について理解できる。 2. 保健・医療・福祉に携わる人々の役割がわかる。</p>	
授業概要		
担当講師	國井哲子	
開講時期：単位	2年次前期	1単位・15時間
授業計画	1回	成人期の対象をとりまく法律
	2回	高齢者をとりまく法律
	3回	小児をとりまく法律
	4回	女性をとりまく法律
	5回	精神に障害をもつ対象をとりまく法律
	6回	在宅療養者をとりまく法律
	7回	看護をとりまく法律の現状と課題
	8回	終講試験
	9回	
	10回	
	11回	
	12回	
	13回	
	14回	
	15回	
	使用テキスト	メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ17巻 看護をめぐる法と制度
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門分野

授業科目名	対象特性別家族ケア論	
科目目的・目標	<p>様々な健康レベル・発達段階にある家族の健康問題について学び、家族看護実践に必要な家族看護の諸理論をもとに、家族アセスメントと家族支援方法について考える。</p> <p>1. 家族の健康問題を解決する家族アセスメントの方法と支援がわかる。</p> <p>2. 対象特性に応じた家族とパートナーシップの関係構築をするうえで必要な基本姿勢がわかる。</p>	
授業概要		
担当講師	磯野沙月	
開講時期：単位	2年次前期	1単位15時間
授業計画	1回	健康障害（急性期・回復期）をもつ成人期の家族員を抱えた家族への看護
	2回	健康障害（慢性期・終末期）をもつ成人期の家族員を抱えた家族への看護
	3回	健康障害をもつ高齢者の家族員を抱えた家族への看護
	4回	健康障害をもつ小児の家族員を抱えた家族への看護
	5回	妊娠・分娩・産褥および新生児の家族員を抱えた家族への看護
	6回	精神に障害をもつ家族員を抱えた家族への看護
	7回	在宅で療養する家族員を抱えた家族への看護
	8回	終講試験
	9回	
	10回	
	11回	
	12回	
	13回	
	14回	
	15回	
使用テキスト	<p>メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ25巻 成人看護学概論</p> <p>メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ26巻 健康危機状況／セルフケアの再獲得</p> <p>メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ27巻 セルフマネジメント</p> <p>メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ29巻 リハビリテーション看護</p> <p>メディカ出版 家族看護学</p>	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		

## 専門分野

授業科目名	ライフサイクルと看護	
科目目的・目標	人間発達学の観点から、看護の対象者である人間の理解を深める。ライフサイクルの各段階における心身の特徴および特徴的な健康課題を学ぶ。 1. ライフサイクル各期における発達課題について説明できる。 2. ライフサイクル各期における特徴的な健康問題と必要な支援のあり方について説明できる。	
授業概要		
担当講師	折田誠子 加藤てるみ	
開講時期：単位	1 年次前期	1単位30時間
授業計画	1 回	発達に関する基本概念の理解と看護(セクシャリティ)
	2 回	ライフサイクルと発達課題
	3 回	子どもの発達とは
	4 回	発達する子どもと家族の理解
	5 回	子どもの健康状態と発達への影響
	6 回	成人期(青年期・壮年期・向老期)の発達課題
	7 回	成人期(青年期・壮年期・向老期)の身体・心理社会的特徴
	8 回	成人の生活と健康
	9 回	女性の生涯発達と身体、心理、社会
	10 回	女性のライフサイクル各期の健康と課題
	11 回	老年期の特徴と発達課題
	12 回	老年期の身体的変化と生活への影響
	13 回	老年期の精神心理・社会文化的変化と生活への影響
	14 回	ライフサイクルとアイデンティティ
	15 回	終講試験・まとめ
使用テキスト	メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ18巻 看護学概論 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ33巻 小児の発達と看護 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ25巻 成人看護学概論 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ36巻 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ31巻 高齢者の健康と障害 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ14巻 健康と社会・生活	
参考書		
評価方法	終講試験	
その他		



## 専門分野

授業科目名	看護実践演習	
科目目的・目標	健康課題をもつ対象の状況をアセスメントし、臨床判断を行うために必要な知識と技術を学ぶ。 1. 複合的な援助技術を要する対象の状態や状況に応じた援助が実施できる。	
授業概要		
担当講師		
開講時期：単位	3年次前期	1単位30時間
授業計画	1回	成人期にある対象への看護実践（演習）
	2回	成人期にある対象への看護実践（演習）
	3回	健康障害をもつ高齢者への看護実践（演習）
	4回	健康障害をもつ高齢者への看護実践（演習）
	5回	健康障害をもつ小児への看護実践（演習）
	6回	健康障害をもつ小児への看護実践（演習）
	7回	周産期及び新生児への看護実践（演習）
	8回	周産期及び新生児への看護実践（演習）
	9回	精神に障害をもつ対象への看護実践（演習）
	10回	精神に障害をもつ対象への看護実践（演習）
	11回	在宅療養者への看護実践（演習）
	12回	在宅療養者への看護実践（演習）
	13回	OSCE
	14回	OSCE
	15回	OSCE
使用テキスト		
参考書		
評価方法		
その他		

## 統合分野

授業科目名	看護研究	
科目目的・目標	看護における研究力（問題発見、問題分析、問題探求、調査、倫理的思考力）を培うために必要な基礎的能力を身につける。 1. 看護研究の基本について理解することができる。（看護研究のプロセス・看護研究に臨む姿勢） 2. 日頃の看護実践での問題を意識し、問題解決のためのプロセスを理解することができる。	
授業概要		
担当講師	栗城尚之	
開講時期：単位	3年次前期	1単位30時間
授業計画	1回	看護研究の目的・意義・種類
	2回	文献レビューと方法
	3回	研究における倫理的配慮
	4回	研究計画書作成
	5回	文献検索
	6回	ケーススタディの実際
	7回	ケーススタディの実際
	8回	ケーススタディの実際
	9回	ケーススタディの実際
	10回	ケーススタディの実際
	11回	ケーススタディの実際
	12回	ケーススタディの実際
	13回	ケーススタディの実際
	14回	ケーススタディの実際
	15回	ケーススタディの実際
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ21巻 看護研究	
参考書		
評価方法		
その他		

## 統合分野

授業科目名	国際看護		
科目目的・目標	世界の人々の健康問題や多文化社会で看護を実践する上で、必要な知識を学ぶ。 1. グローバルヘルスの現状と課題、看護の国際協力の実際や日本における多文化共生と看護の役割が説明できる。		
授業概要			
担当講師			
開講時期：単位	3年次前期	1単位15時間	
授業計画	1回	国際看護の基礎知識	
	2回	異文化看護理論：レイニンガー	
	3回	異文化理解	
	4回	看護の国際協力	
	5回	カンボジア・台湾・中国の医療事情	演習
	6回	カンボジア・台湾・中国の医療事情	演習
	7回	カンボジア・台湾・中国の医療事情	演習
	8回	終講試験	
	9回		
	10回		
	11回		
	12回		
	13回		
	14回		
	15回		
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ18巻 看護学概論 デジタルナーシンググラフィカ14巻 健康と社会・生活		
参考書			
評価方法			
その他			

## 統合分野

授業科目名	チーム医療の実際	
科目目的・目標	<p>チーム医療における看護師としてのメンバーシップおよびリーダーシップの発揮や多職種との連携・協働を学ぶ。</p> <p>1. チーム医療の必要性を理解し説明できる。</p> <p>2. チーム医療の中における他の専門職の役割を理解し、看護職者の役割について説明できる。</p> <p>3. チーム医療の連携・協働の実際について理解し説明できる。</p>	
授業概要		
担当講師		
開講時期：単位	3年次前期	1単位15時間
授業計画	1回	保健・医療・福祉の場における多職種の職務内容
	2回	チーム医療の背景・意義
	3回	検査における看護師の役割（看護学科による講義）
	4回	臨床検査技師の役割（臨床検査学科による講義）
	5回	事例に基づくグループワーク
	6回	事例に基づくグループワーク
	7回	事例に基づくグループワーク
	8回	終講試験
	9回	
	10回	
	11回	
	12回	
	13回	
	14回	
	15回	
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ22巻 臨床看護総論	
参考書		
評価方法		
その他		

## 統合分野

授業科目名	看護マネジメント論																															
科目目的・目標	<p>看護チームにおいて、リーダーシップ能力およびコーディネート能力を発揮しながら、看護の対象者のニーズに応じた看護ケアのマネジメントを実践するための基礎的知識、ならびに看護サービスを提供する専門職として必要な看護マネジメントの基礎的能力を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護マネジメントの必要性と意義について、述べることができる。</li> <li>2. 看護ケアのマネジメントと看護サービスのマネジメントの特徴を説明できる。</li> <li>3. チーム医療における看護師の役割、リーダーシップの必要性について説明できる。</li> <li>4. 看護ケア提供システムの特徴について説明できる。</li> </ol>																															
授業概要																																
担当講師																																
開講時期：単位	3年次前期	1単位15時間																														
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1回</td><td>看護マネジメントの概要</td></tr> <tr><td>2回</td><td>キャリア発達と社会化・専門職化、人的資源マネジメント</td></tr> <tr><td>3回</td><td>ストレスマネジメント、タイムマネジメント、</td></tr> <tr><td>4回</td><td>患者の権利の尊重と情報のマネジメント</td></tr> <tr><td>5回</td><td>労働環境とマネジメント</td></tr> <tr><td>6回</td><td>看護政策</td></tr> <tr><td>7回</td><td>安全管理、感染管理のしくみとケアの提供</td></tr> <tr><td>8回</td><td>終講試験まとめ</td></tr> <tr><td>9回</td><td></td></tr> <tr><td>10回</td><td></td></tr> <tr><td>11回</td><td></td></tr> <tr><td>12回</td><td></td></tr> <tr><td>13回</td><td></td></tr> <tr><td>14回</td><td></td></tr> <tr><td>15回</td><td></td></tr> </table>		1回	看護マネジメントの概要	2回	キャリア発達と社会化・専門職化、人的資源マネジメント	3回	ストレスマネジメント、タイムマネジメント、	4回	患者の権利の尊重と情報のマネジメント	5回	労働環境とマネジメント	6回	看護政策	7回	安全管理、感染管理のしくみとケアの提供	8回	終講試験まとめ	9回		10回		11回		12回		13回		14回		15回	
1回	看護マネジメントの概要																															
2回	キャリア発達と社会化・専門職化、人的資源マネジメント																															
3回	ストレスマネジメント、タイムマネジメント、																															
4回	患者の権利の尊重と情報のマネジメント																															
5回	労働環境とマネジメント																															
6回	看護政策																															
7回	安全管理、感染管理のしくみとケアの提供																															
8回	終講試験まとめ																															
9回																																
10回																																
11回																																
12回																																
13回																																
14回																																
15回																																
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ41巻 看護管理																															
参考書																																
評価方法	終講試験																															
その他																																

## 統合分野

授業科目名	看護リフレクション	
科目目的・目標	<p>事例を用いて総合的に患者のアセスメントを行い、看護の実践を行う中で、その場の判断や対応をリフレクションし、経験を意味づけすることの重要性を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行為の中のリフレクションができる。</li> <li>2. 行為のあとのリフレクションができる。</li> <li>3. リフレクティブサイクルを用いて看護実践ができる。</li> </ol>	
授業概要		
担当講師		
開講時期：単位	3年次後期	1単位30時間
授業計画	1回	リフレクションとは。
	2回	リフレクション演習
	3回	リフレクション演習
	4回	リフレクション演習
	5回	リフレクション演習
	6回	リフレクション演習
	7回	リフレクション演習
	8回	リフレクション演習
	9回	リフレクション演習
	10回	リフレクション演習
	11回	リフレクション演習（割り込み）
	12回	リフレクション演習
	13回	リフレクション演習（複数受け持ち）
	14回	リフレクション演習
	15回	試験
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ41巻：看護管理 デジタルナーシンググラフィカ22巻：臨床看護総論	
参考書		
評価方法		
その他		

専門分野 基礎看護学

実習科目名	暮らしを知る実習	履修時期	1年次前期・1単位40時間
科目目的・目標	<p>ライフステージ各期にある人々の暮らしを理解するとともに、人々が支え合って生きることの大切さを理解する。</p> <p>1. ライフステージ各期にある人々の暮らしを理解することができる。</p> <p>2. 地域で暮らす人々の環境・生活・健康との関連を理解することができる。</p>		
実習概要	<p>小グループにて実習を行う。小児期（思春期）・成人期・老年期の各ライフステージにある人々の暮らしの場に出向き、見学・観察・暮らしの活動への参加、人々へのインタビューを行う。その後、各期の発達の特徴・役割・課題、環境と健康への関連について学びを共有する。</p>		
実習計画	<p>1 単位45時間</p> <p>①オリエンテーション（4時間）</p> <p>②実習・・・小児：保育園・日中一時支援所・特別支援学級 成人期：健診センター・保健センター 老年期：シルバー人材センター・デイサービス・ シルバー大学・社会福祉協議会 グループホーム・サ高住 母性：助産院・高校保健室・子育て支援センター 精神：作業所・デイケア・グループホーム・等で実施。</p> <p>③まとめの会：学生相互の実習体験に基づき、「暮らしの理解」「成長発達の理解」「環境と暮らしと健康の関連」についての学びを共有し、評価する。</p>		
評価方法	<p>ルーブリック評価（実習要項 参照） 100点満点</p>		
その他			

専門分野 基礎看護学

実習科目名	看護を知る実習	履修時期	1年次前期・1単位40時間
科目目的・目標	<p>看護の対象である入院患者とその療養生活及び臨床における看護活動を学び、患者に必要な日常生活援助が、体験を通してわかる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入院患者がどのような環境で生活しているかを知ることができる。</li> <li>2. 入院患者の気持ちを知ることができる。</li> <li>3. 臨床における看護活動の実際を知ることができる。</li> <li>4. 患者に必要な日常生活援助が理解できる。</li> <li>5. 患者の状態を考慮し、必要な日常生活援助を指導者（教員）と共に体験できる。</li> </ol>		
実習概要	<p>病院にて実習を行い、看護活動、療養者の生活の場である病院環境と看護の役割機能について知る。コミュニケーションが可能な患者を1名受け持ち、患者とのコミュニケーションを通して入院患者の気持ちを知ることができる。受け持ち患者に必要な援助を、基本的欲求の未充足から考えることができる。導き出した援助を指導者もしくは教員とともに体験することができる。</p>		
実習計画	<p>1単位45時間</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①オリエンテーション（4時間）</li> <li>②1日目：病院見学半日（9:00～12:00 4時間） 病棟オリエンテーション（患者紹介含む）・コミュニケーション・カンファレンス（13:00～16:00 4時間）</li> <li>③2、3、4日目：実習（8:30～16:15 9時間）</li> <li>④まとめ（9:00～12:00、13:00～14:30）</li> </ol>		
評価方法	<p>ルーブリック評価 100点満点</p>		
その他			





専門分野 成人看護学

実習科目名	セルフケア支援実習	履修時期	2年次後期・2単位80時間
科目目的・目標	<p>目的： 回復期にある老年期・成人期にある対象・家族を包括的に捉え、療養生活の場で暮らすことを通してQOLの向上のために適切な看護を実践するための知識・技術・態度を身につける。</p> <p>目標： 1. 回復期にある患者の身体的・精神的・社会的な特徴が理解できる。 2. 治療・検査を受ける対象の身体的・精神的・社会的状況を理解し、援助することができる。 3. 障害部位と機能障害に対する身体的・精神的苦痛とその予後、社会的役割への影響を理解する。 4. 患者をとりまく人々の抱く不安や役割を理解し、必要な援助ができる。 5. 職種別の役割と機能、働きかけについて理解できる。 6. 退院支援に向けた生活調整、必要な社会資源について考察できる。 7. 回復期にある患者に実践した援助を振り返り、自己の課題を述べることができる。</p>		
実習概要	<p>回復期にある老年期・成人期の患者を1名～2名受け持ち、個別的な看護計画の立案 カンファレンスなどで通して、回復期にある援助方法・役割、チーム医療について考えを深める。</p>		
実習計画	<p>実習時間は、原則 8:30～16:45</p> <p>2週間：臨地：1・2週目：月～木  1:8:30～16:45 10hr 月 臨地  2:8:30～16:45 10hr 火 臨地  3:8:30～16:45 10hr 水 臨地  4:8:30～16:45 10hr 木 臨地  ： 2hr 金：実習ゼミ振り返り  ン  5:8:30～16:45 10hr 月 臨地  6:8:30～16:45 10hr 火 臨地  7:8:30～16:45 10hr 水 臨地  9:00～14:15 6hr 木 学内：振り返り・看護サマリー発表</p> <p>いずれか2日間 リハビリテーション 見学実習</p> <p>臨地7日間×10hr =70 (2日間の見学実習含む)  学内 6hr (実習まとめ2hr含む)  実習ゼミ 2hr  フロアーオリエンテーション 2hr 計80時間</p>		
評価方法	<p>ルーブリック評価 100点満点</p>		
その他			

専門分野 成人看護学

実習科目名	周手術期実習	履修時期	3年次前期・2単位80時間																																													
<p>科目目的・目標</p>	<p>目的： 周手術期にある老年期・成人期にある対象・家族を包括的に捉え、療養生活の場で暮らすことを通して手術などの生体侵襲が患者の回復過程に及ぼす影響を理解することができる。さらに、心身ともに危機的な状況にいる患者家族が危機的状態に対処しながら回復を促進し、その人らしいQOLの向上のために適切な看護を実践するための知識・技術・態度を身につける。</p> <p>目標： 1. 周手術期にある患者の身体的・精神的・社会的な特徴が理解できる。 2. 治療・検査を受ける対象の身体的・精神的・社会的状況を理解し、援助することができる。 3. 手術部位と機能障害に対する身体的・精神的苦痛とその予後、生活への影響を社会的役割への影響を理解できる。 4. 患者をとりまく人々の抱く不安や役割を理解し、必要な援助ができる。 5. 職種連携の協働の重要性や看護の専門性について考察できる。 6. 退院支援に向けた生活調整、必要な社会資源について考察できる。 7. 周手術期にある患者に実践した援助を振り返り、自己の課題を述べることができる。</p>																																															
<p>実習概要</p>	<p>周手術期にある老年期・成人期の患者を1名～2名受け持ち、個別的な看護計画を立案・実施・修正・評価する。カンファレンスなどを通して、急性期・回復期にある援助方法・役割、チーム医療について考えを深める。 病棟だけでなく、手術室・ICU・リハビリテーションでの見学等も行う。 最終日には、看護サマリーを作成し、実習の学びを発表・共有する。</p>																																															
<p>実習計画</p>	<p>実習時間は、原則 8:30～16:45：手術見学により17:30迄延長することもある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2日間、急性期病棟の看護師のシャドウ実習を行う。</li> <li>周手術期にある患者を1名～2名受け持ち、その患者を通して学ぶ。</li> <li>実習前、周手術期にある対象の概要について事前学習して臨む。</li> <li>受け持ち患者の術後の問題点について病棟の看護計画を実践し、個別性を踏まえて実施し、評価・修正する。</li> <li>実習中はカンファレンスを通して実習メンバーの受け持ち患者の看護内容について情報交換し理解を深める。</li> <li>実習の目的・目標に関連したテーマでカンファレンスを行う。</li> </ol> <p>2週間</p> <table border="0"> <tr> <td>1:8:30～16:45</td> <td>10hr</td> <td>月</td> <td>臨地</td> <td>シャドウ実習・オリエンテーション（病棟・手術室）</td> </tr> <tr> <td>2:8:30～16:45</td> <td>10hr</td> <td>火</td> <td>臨地</td> <td>情報収集</td> </tr> <tr> <td>3:8:30～16:45</td> <td>10hr</td> <td>水</td> <td>臨地</td> <td>受け持ち患者の看護計画立案</td> </tr> <tr> <td>4:8:30～16:45</td> <td>10hr</td> <td>木</td> <td>臨地</td> <td>援助実践</td> </tr> <tr> <td>5:8:30～10:30</td> <td>4hr</td> <td>金</td> <td>臨地と学内</td> <td>実習ゼミ</td> </tr> <tr> <td>6:8:30～16:45</td> <td>10hr</td> <td>月</td> <td>臨地</td> <td>受け持ち患者の看護計画発表</td> </tr> <tr> <td>7:8:30～16:45</td> <td>10hr</td> <td>火</td> <td>臨地</td> <td>援助実践</td> </tr> <tr> <td>8:8:30～16:45</td> <td>10hr</td> <td>水</td> <td>臨地</td> <td>援助実践</td> </tr> <tr> <td>9:00～12:00</td> <td>4hr</td> <td>木</td> <td>学内</td> <td>看護サマリー発表</td> </tr> </table> <p>臨地7日間×10hr = 70 臨地（金） = 2hr フラーオリエンテーション 2hr 実習ゼミ 2hr 学内4hr</p> <p style="text-align: right;">計 80hr</p>			1:8:30～16:45	10hr	月	臨地	シャドウ実習・オリエンテーション（病棟・手術室）	2:8:30～16:45	10hr	火	臨地	情報収集	3:8:30～16:45	10hr	水	臨地	受け持ち患者の看護計画立案	4:8:30～16:45	10hr	木	臨地	援助実践	5:8:30～10:30	4hr	金	臨地と学内	実習ゼミ	6:8:30～16:45	10hr	月	臨地	受け持ち患者の看護計画発表	7:8:30～16:45	10hr	火	臨地	援助実践	8:8:30～16:45	10hr	水	臨地	援助実践	9:00～12:00	4hr	木	学内	看護サマリー発表
1:8:30～16:45	10hr	月	臨地	シャドウ実習・オリエンテーション（病棟・手術室）																																												
2:8:30～16:45	10hr	火	臨地	情報収集																																												
3:8:30～16:45	10hr	水	臨地	受け持ち患者の看護計画立案																																												
4:8:30～16:45	10hr	木	臨地	援助実践																																												
5:8:30～10:30	4hr	金	臨地と学内	実習ゼミ																																												
6:8:30～16:45	10hr	月	臨地	受け持ち患者の看護計画発表																																												
7:8:30～16:45	10hr	火	臨地	援助実践																																												
8:8:30～16:45	10hr	水	臨地	援助実践																																												
9:00～12:00	4hr	木	学内	看護サマリー発表																																												
<p>評価方法</p>	<p>ルーブリック評価 100点満点</p>																																															
<p>その他</p>																																																

専門分野 成人看護学

実習科目名	セルフマネジメント実習	履修時期	3年次前期・2単位80時間
科目目的・目標	<p>目的： 慢性期・終末期にある老年期・成人期にある対象・家族を包括的に捉え、療養生活の場で暮らすことを通してQOLの向上や苦痛の軽減のための看護を実践するための知識・技術・態度を身につける。</p> <p>目標： 慢性期)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>慢性期にある患者および患者をとりまく人々の身体的・精神的・社会的な特徴が理解できる。</li> <li>治療・症状に応じた患者の身体的・精神的・社会的状況を理解し、援助することができる。</li> <li>セルフマネジメントを継続できるように患者・患者をとりまく人々に援助ができる。</li> <li>苦痛緩和・QOL向上に向けた援助ができ、生活への影響を理解できる。</li> <li>退院支援に向けた生活調整 および社会資源の活用について考察できる。</li> <li>多職種連携の協働の重要性・看護の専門性について考察できる。</li> <li>慢性期にある患者に実践した援助を振り返り、自己の課題を述べることができる。</li> </ol> <p>終末期)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>終末期にある患者および患者をとりまく人々の身体的・精神的・社会的な特徴が理解できる。</li> <li>患者のQOLについて考察することができる。</li> <li>患者をひとりの人として尊重し、尊厳を重んじる態度を身につけることができる。</li> <li>苦痛緩和・QOL向上に向けた援助ができ、生活への影響を理解できる。</li> <li>患者をとりまく人々の抱く不安や役割を理解し、必要な援助ができる。</li> <li>対象が尊厳をもって死を迎えられるような援助を考察することができる。</li> <li>多職種連携の協働の重要性・看護の専門性について考察できる。</li> <li>終末期にある患者に実践した援助を振り返り、自己の課題を述べることができる。</li> </ol>		
実習概要	<p>慢性期・終末期にある老年期・成人期の患者を1名～2名受け持ち看護過程を展開する。カンファレンスでの議論などを通して、援助方法・役割、チーム医療について考えを深める。 最終日には、看護サマリーを作成し、実習の学びを発表・共有する。</p>		
実習計画	<p>実習時間は、原則 8:30～16:45</p> <p>2週間：臨地：1・2週目：月～木</p> <p>1:8:30～16:45 10hr 月 臨地</p> <p>2:8:30～16:45 10hr 火 臨地</p> <p>3:8:30～16:45 10hr 水 臨地</p> <p>4:8:30～16:45 10hr 木 臨地</p> <p>： 2hr 金：実習ゼミ・振り返り</p> <p>5:8:30～16:45 10hr 月 臨地</p> <p>6:8:30～16:45 10hr 火 臨地</p> <p>7:8:30～16:45 10hr 水 臨地</p> <p>8:9:00～14:15 6hr 木 学内：看護サマリー発表</p> <p>臨地7日間×10hr = 70hr 学内1日 ×6hr = 6hr ・実習ゼミ 2hr ・フロアーオリエンテーション：2hr</p> <p style="text-align: right;">計80時間</p>		
評価方法	<p>ルーブリック評価 100点満点</p>		
その他			

専門分野 老年看護学

実習科目名	高齢者支援実習	履修時期	3年次前期・2単位80時間
科目目的・目標	<p>高齢者特有の健康課題や障害についてアセスメントし、高齢者の望む生活や今後の生活に着目し 看護を実践する。</p> <p>1. 医療、看護を受ける高齢者の尊厳を守る看護を実践できる。</p> <p>2. 高齢者の生活に着目し生活行動の維持や拡充につながる看護を考えて実践できる。</p> <p>3. 高齢者特有の健康課題や障害が高齢者の生活に及ぼす影響について理解できる。</p> <p>4. 高齢者を取り巻く保健医療福祉チームにおける多職種連携、社会資源の活用の実際から、看護師の役割について理解できる。</p> <p>5. 実習を通して、高齢者観を見つめ高齢者看護に対する考えを深めることができる。</p>		
実習概要	<p>地域包括ケア病棟、急性期、慢性期の病棟において、入院している高齢者を1名受け持ち、疾患と加齢変化による生活への影響と日常生活への支援と、対象を取り巻く多職種連携と退院支援の実際について学ぶ。</p>		
実習計画	<p>1. 実習期間：2週間</p> <p>2 臨地実習： 1週目 月～木 8:30～16:45 (昼休憩45分)</p> <p>2週目 月～水 8:30～16:45 (昼休憩45分) □</p> <p>最終日 看護要約の発表 看護計画最終評価 老年観レポート作成</p> <p>3. 内容： 受け持ち患者との関係づくりと看護に必要な情報を得る。 全体像をとらえたうえで、対象の健康課題が生活に及ぼす影響を理解し、生活行動に着目してに日常生活援助を実施する。</p> <p>4 実習時間 臨地7日間 (10時間×7日間)</p> <p>学内実習1日間 (9:00～14:15 6時間×1日)</p> <p>フロアオリエンテーション まとめ会 2時間×2=4時間</p> <p style="text-align: right;">実習時間=80時間</p>		
評価方法	<p>ルーブリック評価 (実習要項 参照) 100点満点</p>		
その他			

専門分野 母性看護学

実習科目名	性と生殖の看護学実習	履修時期	3年次前期・2単位80時間
科目目的・目標	女性の一生を通して母性機能が最も発揮される周産期の対象に看護を 実践する基礎的能力を養う。地域で生活する健康な女性とその家族を対 象に、女性の一生を通じた健康の保持増進を目指し、看護の基盤を実践 できるための基礎的能力を養う。		
実習概要	周産期の実習では、妊婦を受持ち一連の健診を学ぶ。一組の母児（褥 婦・新生児）を通して看護過程の展開を行う。 周産期医療システム実習では、ハイリスク新生児の看護実践や生命危 機にある母子の救急救命看護を学ぶ。 施設退院後にある母子へ継続的に支援する看護実践を学ぶ。性と生殖 の健康を守るために活躍する看護職の活動を学ぶ。		
実習計画	<p>周産期の看護学実習</p> <p>1日目 妊婦健康診査の実際 10時間 見学</p> <p>2日目 早期産褥期の看護支援 10時間 演習</p> <p>見学</p> <p>3日間 早期新生児の看護支援 10時間 演習</p> <p>見学</p> <p>周産期医療システム実習</p> <p>1日目 集中的治療を必要とする早期新生児の看護支援 10時間 見学</p> <p>2日目 生命危機にある母体新生児搬送システム 10時間 見学</p> <p>3日目 地域で暮らす母子を支援する継続看護の実際 10時間 見学</p> <p>性と生殖の看護学実習</p> <p>1日目 家族計画支援事業の実際 10時間 見学</p> <p>2日目 電話相談事業；思春期・不妊・DVなど 10時間 演習</p> <p>見学</p>		
評価方法	ルーブリック評価 100点満点		
その他			

分野 小児看護学

実習科目名	子どもと家族の支援実習	履修時期	3年次前期・2単位80時間
科目目的・目標	<p>目的：小児期にある対象特性、健康特性を理解し、各健康段階にある対象や対象を取り巻く人々を援助する</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 小児期にある対象の成長発達を理解し、対象各期の発達に応じた日常生活の基礎的援助ができる。</li> <li>2) 健康障害における対象の経過・症状・治療・検査・処置を理解し、それらに応じた援助ができる。</li> <li>3) 対象と対象を取り巻く人々の看護問題を明確にし、解決に向けての援助ができる。</li> <li>4) 小児期特有の安全（事故・感染）について理解できる。</li> <li>5) 対象の継続看護・保健指導における看護の役割について理解できる。</li> <li>6) 多職種連携における看護師の役割が理解できる。</li> <li>7) 対象と対象を取り巻く人々へ人権を尊重した看護について理解できる。</li> </ol>		
実習概要	<p>小児期の対象を身体的・精神的・社会的な側面から統合的に理解し、健康回復・維持・促進させる小児看護学の知識・技術・態度を養う。</p> <p>暮らしを知る実習で、子どもの成長発達段階の特徴や日常生活援助方法・コミュニケーション方法を理解する。その知識を基に、施設・病院実習では病気が子どもと家族に及ぼす影響、対象の特徴・健康障害を理解し、対象の特徴・健康障害に応じた看護技術・日常生活の援助方法と小児科外来・施設・病棟における看護継続の実際を学ぶ。</p>		
実習計画	<p>1単位 80時間：8時30分～16時45分</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①小児科病棟3日間（10時間/日）</li> <li>②重症心身障害児施設3日間（10時間/日）</li> <li>③小児科外来・クリニック／1日（10時間/日）</li> </ol> <p>オリエンテーション2時間・実習ゼミ2時間・まとめの会2時間 /76時間</p>		
評価方法	<p>小児看護学実習評価表の視点を用い、実習目標の達成度、実習記録等の提出物、実習前から実習後までの学習状況出席状況等により総合的に評価する</p>		
その他			

## 分野 精神看護学

実習科目名	セルフケア理論を用いた看護実践 2単位80 時間
科目目的・目標	<p>精神に障害をもつ対象とその環境を理解し、個別の生活障害にあわせた看護を実践する基礎的能力を養うと共に、自己のかかわりと多職種での看護師の役割について学ぶ。</p> <p>1)精神に障害をもつ対象と環境について、理論に基づいて個別性をふまえてセルフケアの視点で理解することができる。</p> <p>2) 精神に障害をもつ対象に対し、ストレスに注目しながら自立できる方向へ向けた生活援助を実践できる。</p> <p>3) 精神科病棟の特殊性と他職種連携での看護師の役割が理解できる</p> <p>4)精神障がい者への地域支援について、現状や課題を理解することができる。</p> <p>5)対象とのかかわりを通して自己洞察し、看護師に求められる役割について考えることができる。</p>
実習概要	<p>精神科病院の急性期・慢性期病棟に入院している対象を一人受け持ち、その人らしさ、ストレスや生活障害を理解し、オレム・アンダーウツの理論を用いて健康の回復や維持に必要な援助を実践する。</p>
実習計画	<p>実習時間 (8:30~16:45) 10 H 休憩45分          10H×4日 (月~木) + 10H×2日 (月火) =60H          学内1日 (9:00~17:00) 10H          オリエンテーション全体2H・G毎2H          実習ゼミ2H          まとめの会4H 計20時間 合計80時間</p>
評価方法	ループリック評価による
その他	



専門分野 地域・在宅看護論

実習科目名	在宅療養者支援実習	履修時期	3年次前期・2単位80時間
科目目的・目標	<p>地域で生活しながら療養する対象とその家族を理解し、在宅看護に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の役割と看護の継続性が理解できる。</li> <li>2. 訪問看護師に必要な倫理が理解できる。</li> <li>3. 在宅療養者とその家族のニーズが理解できる。</li> </ol>		
実習概要	<p>訪問看護ステーションにて2週間実習を行う。同行訪問を行い、2名の療養者を受け持ち事例を通して、在宅看護実習の目標到達を目指す。</p>		
実習計画			
評価方法	ルーブリック評価	100点満点	
その他			

専門分野 老年・地域在宅領域横断

実習科目名	地域高齢者支援実習	履修時期	2年次後期・1単位40時間
科目目的・目標	<p>地域で生活する高齢者及び、高齢者を取り巻く人々の理解を、地域・施設という様々な生活の場から捉え、対象の特性を踏まえた看護活動の実際を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活する高齢者の生きがい、活動の場について知ることができる。</li> <li>2. 地域で生活する高齢者の健康増進・疾病の予防について理解できる。</li> <li>3. 地域や施設において保健医療福祉がどのように高齢者の生活を支えているのかを知り、その連携の状況を知ることができる。</li> </ol>		
実習概要	<p>老年看護学：老人福祉センター・入所施設・通所施設にて2日簡実習 在宅看護論：地域包括支援センターにて2日実習</p>		
実習計画			
評価方法	<p>ルーブリック評価 100点満点</p>		
その他			

専門分野 看護の統合と実践

実習科目名	ケアリング実習	履修時期	3年次前期・2単位80時間
科目目的・目標	<p>これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、臨床現場に近い体制の実習を通して医療チームの一員としての役割遂行をめざした看護実践力を高める。</p> <p>また、対象とのかかわりを通し、看護専門職としての役割、責務、態度について学習を深め将来のキャリアを見据えることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の患者を受け持ち、優先順位を考え患者の個別性に合わせた看護援助を実施できる。</li> <li>2. 夜間帯の実習を通して、看護の継続性を理解できる。</li> <li>3. 医療チームの一員として、看護職や他職種と協働・連携ができる。</li> <li>4. 看護専門職としての役割を理解し、自己の課題を明らかにできる。</li> </ol>		
実習概要	<p>病院にて2週間実習を行う。グループ人数に応じた患者を受け持ち、学生1名が2名の患者を受け持つ。患者の一日の援助のスケジュールを学生間でタイムマネジメントをし、計画、実施、評価する。その他夜間実習、管理実習を行う。</p>		
実習計画			
評価方法	<p>ルーブリック評価（実習要項 参照） 100点満点</p>		
その他			